

京古本や往来

古書店と私

雲井昭善

古書店と私の縁は深い。京都での学生時代（昭・11～16）を通じて、語学などのテキスト類は別としてほとんどを古書店で購入していた。とは言え、当時、家からの送金は一ヵ月三〇円だったから、下宿代、食費、交通費や雑費を差引くと、本の購入は必ずしも十分ではなかった。

その頃、ドイツ語のクラスだった私は、故〇教授の影響力もあって、翻訳本から哲学、文学、美術等々何でも興味広く集めていた。

そんな私は、京大周辺、何原町通り、丸太町通り、寺町通りあたりの古書店をくまなく訪ねたものである。大学の予科時代、たまたま哲学教授宅での輪読会に参加したことがあった。河原町三条の大学で、そのテキスト・ヴァインデルバンドの原書を購入したが、高価

という思いよりもあの原書独特の装釘、皮表紙の手ざわりなど、ひとりで悦に入ったことを懐しく思う。

私の専門分野はインド哲学・仏教学であるが、学生時代には、後年、大学で研究生活を送るなど想いもしなかった。ただ、卒業論文に不可欠の資料として、ロンドン・パトリック協会出版による「P・T・S」本があった。勿論、大学の研究室には禁帯出のラベルが貼られたものがあって、当時の学生はそれをノートに手書きした。

或る日、仏教書の専門古書店尚文堂（寺町御池下ル。但し戦時中の疎開でなくなる）の書棚に、「サンユッタ・ニカーヤ」全六冊（原始仏教研究の重要資料）が並んでいるのを見た。しかし高価（確か百円だった）でとても学生の分際では手が出せない。店主に「誰がか

季刊
第38号
京都古書研究会
発行
〒604 京都市中京区
東洞院六角上ル
京都府古書籍商業協同組合内
振替 京都 0-22132
年間購読料 500円
(送料込)
頒価 150円

予約を？」と問うと、「〇〇先生がいずれ購入したいと言っておられたが」と言う。私は早速、神戸の家に電話で事情を話し、そのテキスト（一八八三年版）を入手できたが、当時としては大きな買い物だったかと思う。

私は今次大戦中、神戸空襲（昭・20・3・17）で学生時代に求めた蔵書をすべて焼失したが、前記テキストだけは知人に貸していたため難をのがれた。私は縁あって戦後（昭・22）大学へ戻ったが、戦災で焼失した本を少しづつ補充のため、私の古書店めぐりが再び始まった。「南伝大蔵経」全六十五巻の端本半分を鳥丸七条の古書店で、「ウバニシヤット全書」を浜大津の古書店で見つけては、何回にも分けて神戸まで運んだが、ついこの間のこのように思われる。

いつも思うことながら、古書店をめぐる時のあの一種の胸さわぎを忘れない。「ひよっとしたらあの店に12」という淡い期待感と、それを入手した時の喜びは何物にも代え難い。現代のように、何で

もコピーで資料蒐集が可能な時代では、とても及ばもつかないことである。そう言えば、古書店めぐりにとって、「このジャンルの本ならばあの店で」という目安があると便利である。最近はお〇コーナーを設けた古書店もみられるが、専門分野が細分化されつつある今日、特にその感を禁じえない。

私の専門が専門だけに、インドの書店との出会いも古い。一九六一（昭・36）年九月、ウィーン大学へ赴任の途次、ベナレスにあるモテイラル・パラシダスでインド哲学関係のテキスト類をまとめて購入したが、日本では欲しい本をさがし出すのがインドの場合は「これこれの本」と申し出る方が手つとり早い。

私は、一九六一（昭・36）・10・38・10）年までの二カ年をウィーンで送った。下宿（ウィーン第四区・現一〇四）近くの古書店ハローサーの主人と親しくなり、専門関係書や特に別刷の蒐集、そしてウィーン生活に欠かせない「ウィーン方言辞書」などを購入しては、古き善き時代のウィーンをエンジョイしたものだ。あれからもしばしばウィーンを訪れてはこの主人と懐旧談をしたが、昨（一九八六）年九月、ハンブルクでの国際学会に出席の帰りに立ち寄った時は、店主カール・M・ハローサー氏は昇天（一九八二・（次ページ四段目につく）

古書のご整理は..... 京都古書研究会加盟店

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 赤尾照文堂
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 石川古本
上野区中門外二丁目一
電話二二一五八八 | 井上才書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 其田中
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 京極書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 沢田書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 三密堂書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | シルヴァン書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 津田書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 大岡書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 竹岡書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 谷方書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 東山書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 萩屋書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 福田書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 藤井文政堂
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 文庫堂
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 文庫堂
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 八木書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 山崎書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 | 臨川書
中京区西門外丸太町五丁目八
電話二二一五八八 |
|------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|

天理大学附属天理図書館 開館五十七周年記録展

『日本の古記録』

大西 光 幸

本館は従来より、近世シリーズ（『西鶴』『芭蕉』『秋成』『馬琴』、日本小説シリーズ（『物語と草子』『近代文豪の原稿』、印刷文化シリーズ（『本の歴史』『日本の古活字本』『日本の古版本』）等々のシリーズの下、それらに係わる館蔵資料を以て、展示内容を催してきた。それは、各回の展示内容もさることながら、各シリーズの主題に対して、時代の流れを背景として、或は、幾つかの視点から、文化の波をおおきく捉えて頂こうとする意図をもって行っているものである。

その中、館蔵歴史史料を紹介する日本史籍シリーズは、その第一回として昭和五十八年に開館五十三周年記念展「日本の古文書」が開催された。以来四年、今回、同シリーズの二回目に当たり『日本の古記録』を催すこととなった。記録といえ、元来日記が即ち記録であった。日記は一名厩記とも称されるように、当初は厩に日常の出来事や事件を記入してゆくことから始まったといわれている（『永久三年具注暦』）。



永久三年具注暦

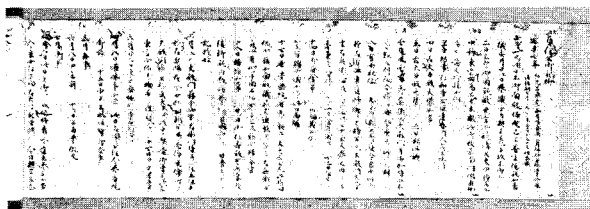
鎌倉時代末期
写真：7月4日、20日、13日に
後鳥羽上皇 遠流の記事

しかしながら、現存するものにしては、我々が日頃おこなっているような、毎日の事柄を日を追って書き留めてゆく、日次（日並）の日記がその多くを占めている（『明月記』『吉田家日記』『時慶卿記』等）。

また、記録する立場によって、公日記と私日記に大別されるが、特に平安時代の私日記には重要な目的があった。即ち宮中における

儀式・式典、或は有職故実について、公卿や官吏達が備忘・参考のために、その一々を記していることである。更には、特定の主題を持った記事ばかりを日記から抜き書き、抄録した部類記が集成され（『貞信公卿記抄』『九条殿御記』『中右記部類』等）、他方、或る一つの出来事や行事を事細かに記録した別記も作成されることとなる（『春日社行幸記』『親長卿記別記』『言継卿記別記』等）。

時代的に見ると、鎌倉時代までは公卿や神官が書き留めた私日記や部類記・別記の類が圧倒的に多い。室町時代を迎えると、漸く武



鎌倉時代初期写 重文
貞信公卿記抄
藤原忠平(880—949)の日記を部類記としたもの

（前ページよりつづく）
一〇・六）していた。新しい店主が故人の写真を記念にと手渡してくれたが、今、私の書斎に彼の温顔がこう語りかける。
「プロフェッサー・クモイ！
ウィー ゲーツ？」と。

家の記録類もその数を増してくるが（『親元日記』『大館常興日記』）、一方従来からの、宮廷の公日記としても『御湯殿上日記』を挙げることが出来る。更に時代が下り、江戸期ともなると、記録する人々の層も一段と広がりをみせ、学者（『大蔵京旅中備忘録』『仁斎日記』等）、文人（『壬申掌記』『馬琴日記』等）、勤皇家（『武田耕雲齋日記』）『黒田清綱日記』『夢かぞへ』等々の日記・記録が溢れんばかりに輩出する。そして、その内容も平安以来の私日記にみられる、実益を中心としたものから、『花鳥日記』

の日記・記録が溢れんばかりに輩出する。そして、その内容も平安以来の私日記にみられる、実益を中心としたものから、『花鳥日記』



筆者紹介 大谷大学名誉教授・仏教大教授（インド学・仏教学）主な著書「巴和小辞典」「仏教興起時代の思想研究」「業思想研究」（編）「インド仏教」「仏教誕生」

のように、四季折々の風物のみを記したものにまで、幅広く変容しつつあり、現在の日記と同じような意識で書かれていることがわかる。

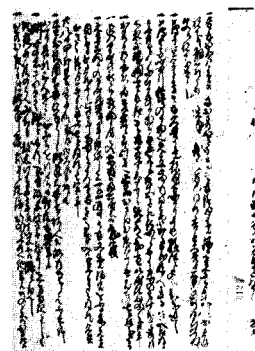
今回は公卿の日記としては最古の『貞信公卿記抄』をはじめ、重文・重美十点を含む四十点を展示し、前述のような記録・日記の諸形態を眺めつつ、平安時代から江

（左上）大館常興日記

天文9（1141）年（西暦1141）幕府裁判制度の要職、内談衆であった大館尚氏の日記

（左下）馬琴日記

滝沢馬琴の日記
写真は文政10年3月28日、息子の嫁「お路」の名が婚礼当日「鉄」からの改名である記事



戸時代に亘る、筆者や内容の変遷をも併せ見ようとしている。
一人でも多くの方々に御覧頂ければ幸いです。

尚、文中に記した資料以外の主な出品物は以下の通り。

公卿補任(平安末期写 重文)

定家筆記録類

兵範記断簡・射遺事・外記政

御座七夜記・釈奠次第

年中行事(鎌倉末期写)

乙夜随筆(霊元天皇宸筆 重文)

紀州家大奥日記



射遺事(いのこ)藤原定家写
射礼の行事に参加出来なかった者に翌日射させることを射遺と言ひ、その式次第を記したものと

「日本の古記録展」

期間 十月十九日(月)〜三十日(金)
場所 天理大学附属天理図書館・二階展示室(入場無料)

西北書店主人をしのぶ

松尾 尊 兌

早いもので塩谷寛二さんが亡くなられてから一年が経とうとしてゐる。病状は岩倉の生駒時秀氏から聞いていた。中国旅行から帰った見舞に行こうと思つていたところ、帰国後、逝去されたことを知った。

葬儀が行われた同志社東の常願寺には、寺町今出川上ル三丁目に別宅があり、私は一九五八年から二年間、そこを借りて住んだ。有力な檀家であつた塩谷さんのお世話である。その頃の私は、今から思えば不思議なくらい古書店廻りに熱心であり、西北書店に立寄つたとき、雑談の中で、家に困つてゐることを話したら、塩谷さんが常願寺に交渉して下さつたのである。

西北書店をはじめて訪ねたのは、一九五三年、京大入学早々であつた。夫人が店番をしておられ、私が本棚を眺めていると、君、〇〇という本があるがいらんかねと奥から声がかつてきた。愛想のな

い口のきき方をするオヤジだという初印象であつたが、何回か行くうちに懇意となつた。亡くなられるまで、塩谷さん―松尾君の關係であつた。私はむかしから日本近代史研究者として、治安維持法にひつかつた人たちに敬意を払つていたから、一種の先輩―後輩關係が成立していたのである。

ときどき二階や、下の奥の部屋で、本をみせてもらひながら雑談した。政治の裏話や、辛辣な人物評も聞いた。今でも残念なのは、大正初年からの中央公論がかなり揃つており、私にも買えない値段ではなかつたが、見送つてしまつたことである。井上清先生に相談したら、同じ値段なら福沢全集の方を買つて読むが良いといわれ、それにしたがつたが、福沢はほとんど読まぬうちに新版が出て無駄となり、一方中央公論は、その後大震災後の分の揃ひを入手したものの、それ以前の分を必要とするごとに、口惜しい思いをすることになった。

一〇年前、私は「敗戦直後の京都民主戦線」という長論文を、勤務先きの紀要に書いた。そのとき、

はじめて岩倉のお宅にうかがつて思ひ出話を聞いた。塩谷さんは一九一〇(明治四三)年、神戸の印刷業者の家に生まれ、大阪商大高商部時代に戦後日本共産党の幹部になつた竹中恒三郎氏と友人になつた。卒業直後、兄の四・一六事件連座を機に共産主義運動に入り、モツブル(赤色救援会)ついで会協の活動家となつた。一九三三(昭和八)年から三六年まで入獄。弁護士は最高裁判事となつた色川幸太郎氏であつた。出獄後神戸で古書店を開いたが大水害にあひ、一九三八年京都に移り、戦時下、いくつかの学生グループに発禁本を提供しつづけた。

敗戦後、京都で共産党組織が再建されたとき、いちばやくこれに参加した。一九四五年一〇月二二日、京都新聞会館で「解放運動出獄同志歓迎大会」が開かれた。徳田球一、志賀義雄らが一〇月一〇日に釈放された直後のことである。この大会を機に、塩谷さんは、もと日本電池細胞長の細川三西氏とともに復党し、小松雄一郎氏(林屋辰三郎氏の従兄、もと共産青年同盟の幹部)や前記竹中恒三郎氏とともに京都の組織の中心となつて活動した。アカハタを京都駅まで受取りに出て、党の事務所のあつた和風書院(川端丸太町下ルにあつた私立図書館)に運んだ。関西地方委員会の設立打合せ会も西北書店で行われた。このとき塩谷

さんは九万円の貯金のうち半額を党に寄付したという。

しかし、間もなく塩谷さんは組織の中心部から身をひいた。小松氏は徳田球一の指名で京都の責任者となつたが、元来、関西とはなじみがなかつたことも手づつて、地元の黨員とうまく行かなかつた。憂慮した徳田は、お目付役の竹中氏を中央に呼返して、代りに山辺健太郎氏を京に派遣した。山辺氏の説得で、塩谷さんは一九四六年二月に指導的な立場から退いた。

塩谷さんは、絲屋寿雄氏にすすめて、近代日本研究会をつくらせたり、戦後初の総選挙では、共産党から立候補した太田典礼の選挙運動に加わつたりした。もつとも力を入れたのは一九四六年六月に設立された京都産業労働調査所であつた。これは戦前に野坂参三氏らによつてつくられた産業労働調査所にならひ、「民主日本再建のために必要な真に科学的な基礎資料」を提供し、「京都民主戦線の一翼」たらんことをめざすものであつた。

所長は大阪商大教授だった名和統一。名和教授は京都民主戦線の中心人物であつた。細野武男(のち立命大総長)、沼田稲次郎(のち東京都立大総長)、野々村一雄(のち一橋大教授)、上田作之助(のち京都市産業局長を経て龍谷大教授)堀江英一(のち京大教授)ら錚々(次頁五段目につづく)

書物の修理 第三回

「書祭」 世儀義夫

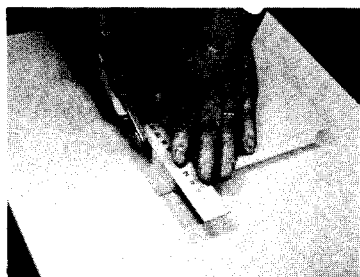
今回は痛みやすい文庫本を裏打ちした布と、ボール紙を使い「上製本」に改装してみます。

改装順序(写真参照)

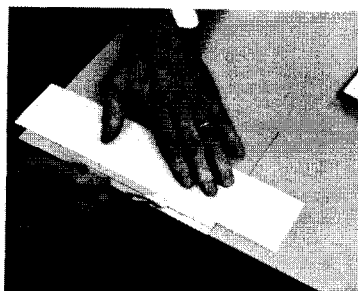
①あまり痛んでいない文庫本のカバーをはずし、表紙を静かにめくり取ります。(写真の本は「月下の一群」新潮文庫 昭和53年)



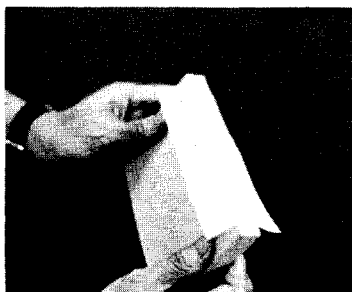
②見返し用として0.2ミリ前後の上質紙、又はコットン紙のオモテを内側に2つに折り、8ミリのり代にボンドを塗り中身ののどに貼りつけます。(見返しは中身より少し大きく切っておく)



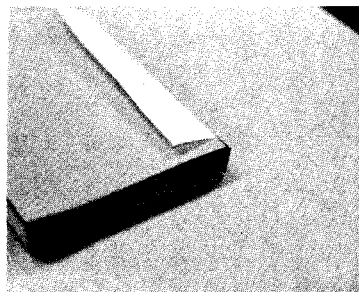
③カッターナイフとステンレス定規を使い中身と同じ大きさに見返しを切り落とす。(本文を切らないように)



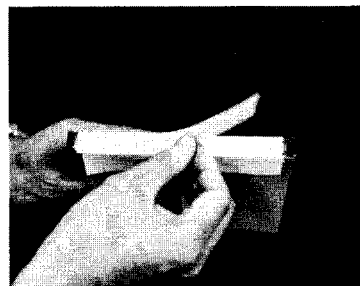
④中身の背の部分にボンドを塗り寒冷紗、又はハトロロン紙を貼りつけます。



⑤乾燥させたあと、ヘッドバンド(頂帯)を本の背の天と地の部分へボンドで貼りつけます。



⑥和紙、又はクラフト紙を本の背幅と同じ寸法に切り、天と地に5ミリの余裕を持たせてボンドで貼ります。



②①⑥とは前回と同じ作業ですが、最近の文庫本は無線綴じ(糸を使わずに接着材だけで本文用紙の背を固定する方法)が使われていますから、落丁には充分注意して下さい。

(中身作り完了)

⑦中身の寸法を測ります。

中身のタテ A

〃のヨコ B

〃の背幅 C

⑧ボール紙(2ミリ厚)を切ります。

A プラス6ミリ 平ボール紙

B マイナス2ミリ 〃

C プラス2ミリ 背ボール紙

ボール紙を切る時は、カッターナイフの刃を新しくし、定規をボール紙の上に置き、片手で強く押さえ、ナイフを数回引いて切り落します。(金属定規の裏側にすべり止めのゴムを貼ったものが市販されています。)

(前ページよりつづく)

たるメンバーが協力した。塩谷さんは事務長格で、資金集めに奔走した。しかし折角集めた金が主事の芸者遊びに使われたこともあってうまく行かず、上田さんが再建にあたった。

その後のことは聞かなかったが、以上のような経歴であるから、西北書店には社会科学ものが充実していた。もとの運動関係者からの仕入れが多かったと推測される。主人の眼がたしかだから、いわゆる堀出し物はほとんどなかった。

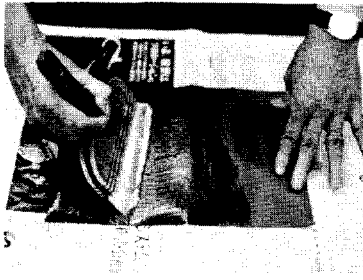
しかし塩谷さんの眼は、営利にばかり向けられているのでなかった。現在、京大経済学部には河上肇先生の旧蔵書やノート類が「河上文庫」としておさまっているが、これも塩谷さんの尽力によるものと聞いている。遺族の方はご自分の専門関係の蔵書を売却するついでに、河上蔵書も西北書店に処分を

任されたのだが、塩谷さんは、これは京大で保存すべきものと考えて、経済学部には幹旋されたのである。商人であれば東京方面に流して大儲けできた筈である。学問を尊重し、河上先生を尊敬する塩谷さんだからこそ、河上蔵書は散逸を免れたのである。

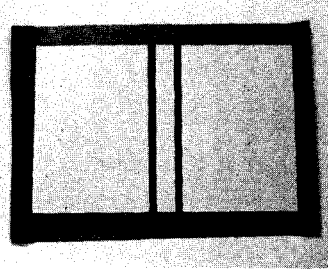
西北書店には塩谷さんのお仕込みで寛さんという立派な後継者ができた。岩倉に隠棲されている静江夫人の健康と、西北書店の隆盛を祈る。

(京都大学文学部教授)

⑪鉛筆でチェックした位置にボール紙を置きます。(布がのりの水

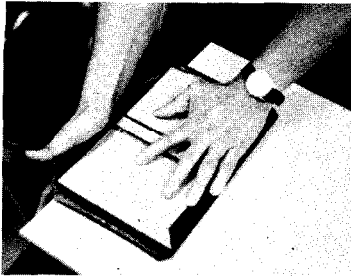


⑩布の裏へヒメのり8割、ボンンド2割、水を適量加えた接着材を刷毛でムラなく塗り広げます。

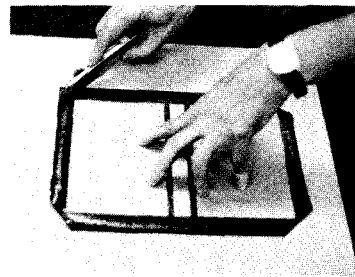


⑨裏打ちした布、又は表紙用布クロス^{（1）}の裏にカットしたボール紙を置き、鉛筆で位置をチェックします。(背ボールと平ボールの間隔は8ミリ、周囲の典代は20〜25ミリ)

⑭表面を静かに押えたあと、立てて乾燥させます。(表紙作り完了)

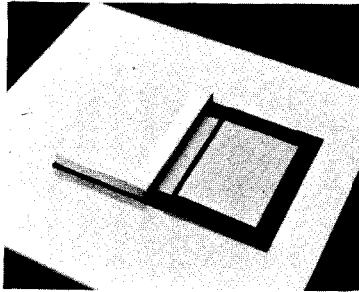


⑬天・地・小口の順番で折り曲げます。(小口を曲げる時は指先を使って角を少し折込みます)

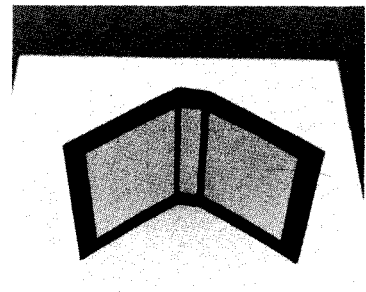


分を含んで伸びている場合がありますから、定規で確認します)
⑫ボール紙の角より5ミリ程布を残し四隅を切り落します。

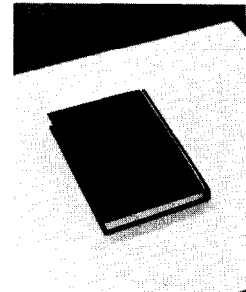
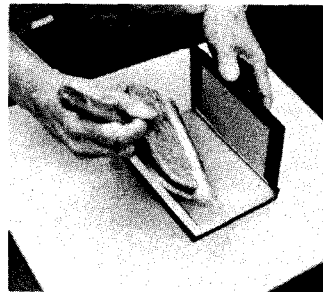
⑮ヘラ、又は指先でミゾを押え、麻糸を強く巻いて結びます。
⑯表紙を90度開き、接着材を見返しにムラなく塗ったあと静かに閉じ、数分間体重をかけて強くプレスします。



⑮表紙のミゾにボンンドを塗り、中身に合わせて表紙をかぶせます。(表紙が中身より周囲3ミリ出ている状態が良い)



⑰表紙を少し持ち上げ、はみ出したのりがあれば布で拭き取り、押えたまま一昼夜置きます。
⑱カバーや元表紙のタイトルを切り抜き、背表紙やオモテ表紙にボンンドで貼りつけます。
(表紙と中身の取りつけ完了)



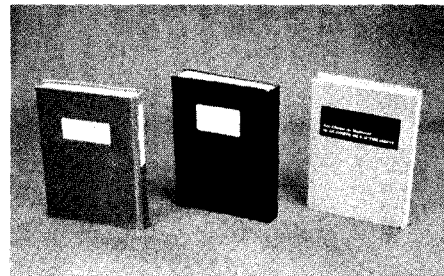
写真右より手順⑮⑯

※今回は和装本の修理の予定でしたが、たいへん読みやすく面白い和装本修理の技法書が6月に汲古書院より発行されましたので、文庫本の改装に変更いたしました。

●古文書修補六十年
―和装本の修補と造本―
遠藤諦之輔著 昭和62年
A5版横型 角背上製本 函入
本文10ボ組二五六頁 図版多数
口絵二二頁 用語索引つき
発行所 汲古書院 〒102東京都千代田区飯田橋二五四
電〇三(六五)九七六四

参考文献

尚、布の裏打ちとヘッドバンドの作り方は次号に掲載します。



上製本に生れ変わった文庫本

聞きがき

「昭和古本販売史」 (七)

古本の価格統制令

昭和十二年七月八日、蘆溝橋にて発せられた数発の銃声をきつかに日中戦争、そして太平洋戦争と戦火は拡大の一途をたどった。翌年四月一日に国家総動員法が発令、軍官支配は国民生活をすべて覆いつくし、古書業界も安穩とはしていられなくなった。前回に書いた古本消毒令もそのあらわれの一つではあったが、さらに厳しい法令が制定された。「古本の価格統制令」である。無数の種類があり、その一つ一つに頗る個性の強い商品に公定の価格でもって縛ろうというのである。如何に戦時体制下とはいえ古書業界にとつてなんと無慈悲な法令であった。

需要者側には一見歓迎されるべき法令であったであろうが、愛書家小汀利得が「公価定められて古本飢饉が氣遣はれる」と案じたその通り良書が市場から姿を消すことになった。

特殊な商品、古書籍に前代未聞の公定価格を課したこの経緯を今一度見直してみることが、古書籍の経済力学を理解するのに役立つのではないかと考え、少々煩厭を承知で業界と官憲との攻防の跡をた

どつてみる。
(記録は「東京古書組合五十年史」を主に兵庫県古書組合「六十年史」「全国古書籍商連盟会報」「同統制組合報」「公認京都古書組合誌」などを参考とした)

戦火の拡大は資源に乏しい我が国ではたちまち物価の高騰をみた。これに対して政府は昭和十四年十月十八日に「価格等統制令」を発し、すべての物価を同年九月十八日時点のままに凍結させた(俗に九・一八禁令といわれる)。さらにそれを肉づけするために同年十二月二十六日には「暴利行為取締規則」を発令し物価の高騰防止にやっきとなった。

古書価も十四年頃より漸騰を呈してきたが、十五年に至つて急騰乱調子となつてきた。需給のバランス破綻から当然の結果ではあったろうが、それに便乗した古書業者も無かつたとは言えまい。そこで警視庁は昭和十五年七月三十一日に膝下の東京古書組合長を呼び出し厳しい警告を与えた。

前二法をたてに容赦なしに取締まられては営業もおぼつかないと

同組合では緊急に対応。その結果とりあえず取引の多い本より二、三千点を選び九・一八時の価格を〇として承認を受け、その他は自肅販売にまかせてもらうこととし、すぐ〇本の選択作業にかかった。八月十五日にこの東京組合案を全国古書籍組合連盟会(戦時中一部名称を変更したが以下「全連」と称す)の臨時総会で承認、翌日和本を含む二、三千点を記載した「自肅自戒古書籍標準価格表」を商工省、警視庁、東京府に提出した。

しかし府より、古書の流通圏を考えて、東京府下のみの価格では意味がないので、全国的な価格、即ち①として設定せよという指導を受けた。そこで先の〇価格をそのまま②として承認してもらうべく商工省に働きかけたところ、これが数へび。当局からこの価格表はずさんで多くの良書を逸しており、かつ抱括的でない、③とするにはさらに広範な分野にわたる統一価格を設けよと言ひ渡された。業者の一時しのぎの策はものの見事に看破されたのである。

そこで再び東京組合に加え全連でも各地区で協議会をもち業者案をまとめた。その大要は
○大正十三年以後の刊行書は定価の八割にて販売。
○絶版書等高価なものは一点ずつの公価を定む(特掲品と称す)。
○大正十二年以前の刊行書、洋書、

和本唐本、非売品本等は公価外の自肅販売とする。

当時一流の新刊古書は定価の九割で売るのが慣習であつたが、時局にかんがみ八割まで譲歩した点が注目される。業界ではこの線を生命線と称して死守する一方、大正以前に刊行された当時の古書は範疇より除くという抜路も用意したのである。

一方取締当局は悪書の便乗的値上りを理由に新刊古書の上限を七割とする線を容易に譲らなかつた。しかし当局は一方的な強権を発動するのではなく、十一月に二回当局と業者に加えて帝国図書館、東大図書館及び出版社代表の官民が



業者が常時携行した「古書籍公定価格総覧」

古書価を協議する場をもつた。とりわけ商工省の直接担当官前田福太郎は相当な愛書家で、古書価の複雑さを十分理解していた。とはいえ戦時体制下、一事務官の力ではどうしようもないジレンマに苦

かくして昭和十五年十二月十七日本邦最初の古本公定価格が商工省より発表された。それは翌年三月二十六日付官報に「価格等統制令第七條ノ規定ニ依リ中古品タル書籍ノ販売価格左ノ通指定ス」と次のように告示されて同日より施行された。

一、増訂図書解題以下(特掲品)八八二点。
二、右以外ノ中古品タル書籍ニシテ定価ヲ附セルモノノ販売価格ハ左ニ定ムル所ニ依ルモノトス。(一)大正十三年以後刊行書ハ定価ノ七割五分(二)但し、昭和六年迄の絶版書ハ八割、(三)自大正八年至十二年ハ七割、(四)明治三十八年至大正七年ハ三割、(五)明治三十八年以前ハ五割ヲ超ユルコトヲ得ズ。
三、交換会取引ハ右ノ一割下ゲ。
四、八条 略。

九、和本唐本洋書並ニ學術雜誌類ハ本表価格ヲ適用セズ。
第二条の第一項に明示された七割五分という上限額はちやうど官民両者の主張の折半である。両者の息づまる交渉の跡がうかがえる。

第一条の特掲品は「一部門二偏セズ需要ノ普遍的ニシテ流通多ク且実用性高キモノノ内ヨリ現在市価ノ妥当ヲ失スルモノ及将来昂騰ノ虞アルモノ」が選定されている。この特掲品目及びその価格は以後三回の改定で変動があり、その推移は当時の古書販売の傾向を知る絶好の資料となろうが、これは

別の機会にゆづり先を急ぐことにする。

さて公定価格の発表を受けて実施に先だち五十音別「古書籍公定価格総覧」(菊半版九十三頁)が各古書業者に全連より配布された。業者は常にこれをポケットにしのばせ仕入に、値段付けにページをくらねばならなかったという。

古書の大きな供給源として交換会の市場がある。ここでも価格は第三条に規程されている通り③の割安とせねばならない。当時の市場はほとんどセリ売りだったが、それまでのようにボンボンと値がつり上るわけにはいかなかった。おまけに③に押えられた良品は出し惜みの対象となり、たまに市場に出ても上限があるためほとんどが抽選。こうなると不要の者まで抽選に加わる始末である。また逆に雑書まで上限に堂々と値上りしてしまった。

仕入源がこのような状態では店の本は推して知るべしである。各店自爾が建前とはいえそこは商人、

本に欠陥がなければ上限の値をつける店が多くなり掘り出し物の妙味がなくなった。それ以上に特掲品や絶版物の良書がたちまち姿を消した。市場の抽選でやっとなにを入れた本をはたして店に並らべるであろうか。あげくは同等以上の価値の本を持参した人にのみ売る等価交換や他の本の購入を強制する拘合せなど悪癖な商をする本屋も現われてきた。

ちよつと先に飛ぶが、昭和十九年七月三日付の改訂では注意事項に「告示ハ最高価格ヲ設定スルモノナリ、コノ価格ニテ販売セヨトイフニ非ズ、(略)、従来一部三見ラレタル全店悉ク最高公価ノ正札ヲ附スルガ如キ業者トシテノ無識ヲ一掃シ、真ノ古本屋トシテノ値段ヲサレタシ」売惜シミ、抱合せ、交換強要等従来同様厳禁ナリ」とわざわざ規程されていることは末期には相当悪徳業者があつたことを物語っている。

ここでちよつと話はそれるが、騒動でてんやわんやの最中、も

うひとつやつかいな法令が古書業界にも関わっていた。昭和十五年七月七日発令の「諸複製品販売禁止令」である。諸複製品に指定されたものは許可無しでは販売できなくなった。この中に皮革製品が含まれており革で装幀された本まで対象となったものだから古本屋はたまつたものではない。とりあえず在庫の革製本を列記して「革装書籍販売許可申請書」を提出、許可を得た。その商品には鈴の印が押された。この許可取り締りは各府県まちまちで、京都では十七年十月には書物に限り調査は必要無しとなった。他府県も書物に関しては有名無実のものとなったようである。

さて体制は近衛内閣から東条へと変わり商工大臣に岸信介、大蔵大臣に加屋興宣が就任、「戦力増強」の名のもとに早速特別行為税や物品税などが課せられた。新刊書には定価の上に特別行為税が加算されたが、古書では版画、拓本、印刷書画及び美術書に物品税がかかった。二百円未満三割、二百円以上六割という高税を業者は納めねばならなかった。

昭和十七年七月四日に第一回の改訂があり特掲品が三〇点に増加されたがこの中に和本三十五点も含まれた。圏外にあった和本にもいよいよ公の統制が及んできた。同時に輸入の途絶で古本が急騰している洋書についても公の適

用外が問題とされるようになった。

そこで第二次の改訂がなされるのであるが、昭和十八年に入るや戦局はますます厳しく、もはや当局で詳細な価格の変更にかまっておれなくなつたのであろう、同年八月六日に告示された第二次改訂では第四条に「第一、二条ノ価格ノ範圍内に於テ全連ガ査定シタル場合ハ其ノ価格ニ依ル」と官に代つて全連に(即ち業者に)価格査定の特権が与えられたのである。この改定では特掲品として和書が一一〇点加えられたが、さらに新設定として洋書八五七点が欧文で記載された。

第二条は(昭和十八年以降九割、昭和十六年至十八年八割、昭和十年至十五年七割、四大正八年至昭和九年十三割と改められた。)(他の条項は従前と同じ)

昭和十九年七月三日には深まる古本飢饉に対処するため第三次の改訂がなされた。とくに流通の中心をなす第二条は(昭和十七年至十九年九割、昭和十五年至十六年十割、昭和十三年至十四年十三割、昭和十一年至十二年十五割、大正八年至昭和元年十三割と改訂された。また同条には「(ハ)文庫類ハ昭和十五年以前刊行ノモノ二十割、同十六年至十八年十五割」という項が新設され大衆的需要の大きい文庫本の出回りをはかつた。

この三度目の改訂によって古書価はほぼ業者の主張する線にまで

達したが時すでに遅し、ほとんどの良書が(それどころか本そのものが)市場から姿を消しており公定価格の改訂ではや焼け石に水であった。

そこで最後の方法として従来の新刊時の定価を規準に割りだした価格ではなく、本のページ当りで価格を決めるというまことに乱暴な古書価が全連で立案された。物資不足は紙にも及んでおり内容よりツプシの重さの方に価値が出てきたのである。

本土決戦を目前くも政府は古本のことなどどうでもよかったのだろう。この業者案はそのまま認められ、昭和二十年四月十四日告示された。序文に「従来ノ公価ヲ一切廃ス」として、第一条に「大正十三年至昭和十八年ノ間ノ出版物ノ最高販売価格ハ本文、附録ノ合計頁ニ、頁当り単価ヲ乗ジタルモノトス」と規程された。頁当り単価は専門書から一般大衆書まで三群に領かれた、夫々判型によって三種の頁当り単価が示されている。また十八年以降の出版物は定価以下の売価とすること、和本、洋書や大型本などは適用外即ち自由価格とされた。

これによってついに公を撤廃に等しいものにまで追い込んだが、ここで終戦。翌年三月正式にすべての価格統制令は廃止されるが、古本はそれに先だち前年十二月に全連が独自に廃止を宣言した。

古書籍公定価格販賣實施

一 大正十三年ヨリ發行古書其公定價七割五分以内
二 大正十三年ヨリ昭和六年十月末ヨリ其公定價其公定價内
三 大正十三年ヨリ昭和六年十月末ヨリ發行古書其公定價三割増内
四 昭和七年十月末ヨリ發行古書其公定價三割増内
五 昭和七年十月末ヨリ發行古書其公定價三割増内
六 公定價定額八割五分以下其公定價三割増内

全國古書籍商組合聯盟會

右發賣率々て統一賣價に訂正されし品類見當り節減を注意す

「公定価格販売実施」のポスター
(「東京古書協会五十年史」より)

六ヶ年にわたり古本屋を悩まし
時間と労力を消費させ、しかも物
価対策には何ら寄与もせず、むし
ろ古書の出回りにマイナスとなっ
た古書公価の「喜劇」はかくして
終わったのである。

終戦の日、全連の田中慶太郎(文
求堂)理事長は次代の古書業界に
向って声明を送った。

「(前略)、今日以後は武力日本
に代って文化日本を建設しなければ
なりません。日本の文化水準を
高め、進んで世界文化に貢献しな
ければならぬと思います。此に於
て文化財の需給を担当する我々の
職責は愈々重大となりました。商
売を単に自己の生活手段とする観
念を改め、日本再建の大事業を担
ふ一員としての本屋たる自覚にも
とづいて業務に精励される事をお
願ひ致します(以下略)。

戦後四十年余の今も古書業者は
常に銘とせねばならぬ言葉である。

この稿を執筆するにあたり、
京都における公定価格委員の唯
一人の生存者であつた前田菊雄
氏に当時の話を聞く予定であつ
たが、昨年末より病の床につか
れ今夏亡くなられた。もともと早
く筆を起せばよかったと悔い
が残る。ご冥福をお祈りする。

(前田 司・キクオ書店)



古書研だより

第十一回古本まつり

どこまでつづく

一〇〇円均一本の列

東は神田の古本まつりに対して
西は百万辺の古本まつり。日本を
二分する古本の大イベントが近づ
いた。古書研究会主催の百万辺古
本まつりは今年で第十一回目、十
月三十一日より三日まで京大北門
前百万辺知恩寺境内で開催される。

今年は、ギネスに挑戦/どこま
でつづく一〇〇円均一本の列と題
したチャリティー均一コーナーが
目玉。山門から本堂までの正面参
道に、いやひよちとしたら本堂も
とりまいて一冊一〇〇円の本がず
らりと並ぶという。さてあなた
はここで掘り出し物を「何m」見
つけられるか。今年のポスターも
張りついで行けばどこまでも続い
てゆくというユニ
ークなもの写真。

他にもチャリテ
ィーオークション、
入札コーナー、古
本修理講座、マン
が教室・似顔絵コ
ーナーなどすつかり
おなじみになつた
イベントがどつさ
り。オーブニン



グには全国でもここだけといわれ
る「古本供養」があり、知恩寺名
物の大珠数くりがみものである。
青空即売会には会員十九店が店開
き、出品準備に大わらわである。
(開店時間 午前十時~午後六時)

「古本まつり」 「参加十九店の二ロアピール」

赤尾照文堂

今年もやりますノ3冊500円・文庫
本一万冊大放しノ10冊500円・歴史
関係・ペーパーバック出品予定!!
石川古本店

マンガ、パンフレット多数出品。
家族揃って店番します。生活苦の
ため特定の商品はサービスします。

- 井上書店
学生さんの為の学生さんの店。
学生さんと共に四十年。
当店は不滅です。是非来て下さい。
- キクオ書店
美術の秋・食欲の秋、そんな秋に
ふさわしい美術本とグルメの本を
どっさり。他に原書のSFなど。
- 京極書房
極めて普通の店 京極書房
何があるか? だらからと云つて
これがあるとは云えない店ノ
沢田書店
学術書・一般書を一年一度の大蔵
ざらえ。出血覚悟でやります。
ぜひ当店テナントにおいで下さい。
三密堂書店
青空に本の祭りは探究の
読書の秋に発掘を今なお思うこの二冊
「健康・感謝・思いやり」の老舗ヘノ
シルヴァン書房
美術洋書で大バーゲンのシルヴァ
ンです。：が今回は直前仕入の戦
前の映画雑誌を加えて大売出し。
- 大書堂
和本・古地図・版画・粉本・板木
図案・型紙・扇子・チラシ・パン
フ・小説・美術書たくさん大書堂
竹岡書店
青空恒例、新しい本から古い本ま
で、大量出品、大放し、掘り出し
物多し、乞ひ期待ノ
谷書店
仏教関係書を中心に古典籍も含めて
何かが有ると思わせる店づくりを
心がけます。
- 津田商店
原書から文庫本まで何でもおます。
百万遍は初めての参加やからウブ
おっせー。
- 東方商店
一、戦前戦後の教科書
二、戦前戦後の各種雑誌類
三、粉本類、その他
外山書店
特設京都関係書、滋賀関係書コー
ナー設置、業界一の在庫量で御来
迎をお待ち致します。
- 萩書房
見て楽しい本ノ 昔懐かしい本ノ
読んでタメになる本ノ 学術研究
に役立つ本ノ 大売出しノ
福田屋書店
学術書から一般書まで幅広く品揃
え。「良書を安く皆様へ」をモットー
に頑張りますのでお越し下さい。
文庫堂
幅広い分野で珍しい本を集める
べく努めております。
最新入庫品出品予定ノ
山崎書店
美術書たくさん そして原書も
たくさん。その上 フレッシュノ
大安売りノ
臨川書店
いよいよ今年も秋の古書まつり。
良書を精一杯、廉価でご奉仕致し
ます。掘り出し物をご期待下さい。

次号予定

「京古本や往来」第三十九号は
六十二年一月十五日予定です。

〒600 京都市下京区寺町通仏光寺下ル

三密堂書店

電話(〇七五)三五一一九六六三
振替 京都 四一三四七一

◎仏教関係特集

1	金光明経の研究 金岡秀友著 大東出版 昭55 四〇〇〇
2	増冠金剛経略疏 笠間龍跳編 文光堂 明20 一、五〇〇
3	仏説若生経和解 貞極上人著 秋田屋 文政12 一、〇〇〇
4	仏像新集 全二冊 權田雷斧著 丙午出版 昭8 二、〇〇〇
5	龍頭観心覺夢鈔全三冊 小山憲策編 三書堂 明再 八、〇〇〇
6	観心覺夢鈔合本 沙門典壽撰 白蓮社 寛政3 五、〇〇〇
7	三國仏法通縁起沙門凝然述 文栄堂 寛永9 二、〇〇〇
8	十二宗綱要 全二冊 町元吞空編 文昌堂 明20 二、〇〇〇
9	教誡律儀講述 全二冊 沙門釈慧編 赤井氏 正徳4 四、〇〇〇
10	天台四教義新訳 稻葉園成著 法蔵館 大11 三、〇〇〇
11	天台教大意 天台沙門灌頂貝葉書院 明再 一、五〇〇
12	天台四教儀 森井国雄著 同盟屋 明21 二、〇〇〇
13	正信傳講義 柏原祐義著 平楽寺 昭14 三、〇〇〇
14	禪宗史綱 村上專精著 富山房 昭21 三、〇〇〇
15	臨濟慧照禪師録 宗演重開撰 柳枝軒 明再 三、〇〇〇
16	冠註臨濟慧照禪師語録 町元吞空編貝葉 大4 三、〇〇〇
17	鎮州臨濟慧照禪師語録 慧然師柳枝軒 明15 二、〇〇〇
18	永平初祖学道用心集 古田梵仙編山口屋 矢野氏 明19 一、五〇〇
19	洞山祖師密鏡三昧歌 侍者慧愚柳枝軒 明再 一、〇〇〇
20	臨濟禪師語録 妙心寺慧然師花園教学 明21 一、五〇〇
21	澤庵禪師之研究 西義雄外著 大東出版社 昭19 一、五〇〇
22	増補正燈世譜 大徳禪寺編 遠達局 昭9 一、〇〇〇
23	茶禪論 立花大龜著 岡田氏 昭14 一、五〇〇
24	興禪大燈因年譜奥田正造編 森江書店 昭8 一、五〇〇
25	塗毒鼓 全二冊 藤田玄路編 藤田家 大13 三、〇〇〇
26	寒山詩講義 若生国栄著 光融館 明42 三、〇〇〇
27	無門關解釈 紀平正美著 岩波書店 大7 三、〇〇〇
28	龍頭無門関 弥衍宗紹編 松屋蔵 明19 三、〇〇〇
29	活禪録 藤波一如著 文学同志会 明35 一、五〇〇
30	禪學觀 加藤拙堂著 東亜堂 明45 一、五〇〇
31	禪學療法 田中茂公著 文原堂 昭14 一、五〇〇

〒602 京都市上京区鳥丸通今出川上ル
同志社正門前

沢田書店

電話(〇七五)四五一〇五二三
振替 京都 三一九一四八

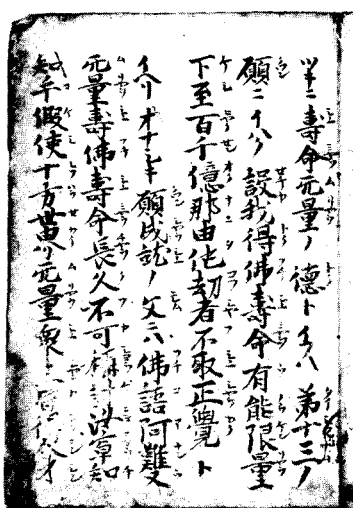
1	日本郷土図観 風俗民芸芸能 夕刊京都新聞社 昭34 一、六〇〇
2	神祕の海底と湖底のわ湖底探検記 佐々木 京都新聞社 昭34 二、〇〇〇
3	趣味の植物採集 牧野富太郎 三省堂 昭18 一、〇〇〇
4	唯物弁證法講話其他 永田広志選集(一) 白陽社 昭23 一、五〇〇
5	唯物史観講話 永田広志選集(二) 白陽社 昭23 一、五〇〇
6	生成の形而上学序論 一 土井虎賀壽 筑摩書房 昭17 一、五〇〇
7	プラトン哲学 パーネット出版訳河出書房 昭19 一、〇〇〇
8	ラッセル数理哲学序説 平野智治訳 弘文堂 昭18 一、〇〇〇
9	日本の課題と世界史 高山岩男 弘文堂 昭18 一、五〇〇
10	概説歴史学 大類伸 生活社 昭19 一、〇〇〇
11	最新日本歴史年表増訂版 大森他 三省堂 昭20 一、〇〇〇
12	ゲート 木村謙治 弘文堂 昭17 二、〇〇〇
13	独逸浪漫主義 改訂版 茅野蕭々 三省堂 昭17 二、〇〇〇
14	続小泉八雲読本 田部隆次編 第一書房 昭18 一、〇〇〇
15	小泉八雲人生と文学改訂英文 田部隆次 北泉堂 昭18 一、〇〇〇
16	ブレイク詩選 土井光知訳 新月社 昭23 一、〇〇〇
17	フランソアコベ悲哀の娘 丸山小松訳 白水社 昭2 一、〇〇〇
18	ルイエモン白き處女地 園信一郎訳 改造社 昭11 一、〇〇〇
19	夫ドストエフスキイの回想上 羽生圭 興風館 昭17 一、〇〇〇
20	舊約聖書の倫理 浅野順一 弘文堂 昭22 一、三〇〇
21	石神問答 柳田国男 創元社 昭17 一、〇〇〇
22	旅の茶話 萩原井泉水 創元社 昭5 一、〇〇〇
23	古典の精神 武田祐吉 創元社 昭18 一、〇〇〇
24	東西遊記北窓瑣談 有朋堂文庫 同刊行会 明43 一、〇〇〇
25	近代名文家集 新訳日本文学双書 同刊行会 昭3 一、五〇〇
26	謡曲百番 井原西鶴集 昭3 一、八〇〇
27	井原西鶴集 昭4 一、五〇〇
28	古事記大鏡水鏡 昭3 一、五〇〇
29	神皇正統記梅松論談史餘論 昭3 一、三〇〇
30	日本書紀祝詞及勅宣命古語拾遺 昭2 一、〇〇〇
31	奥の細道羽衣西遊七部集 昭3 一、五〇〇
32	紫式部日記和泉式部日記更級日記枕草子他 昭3 一、〇〇〇
33	七彩夢幻 石岡瑛子 藤原新也 パルコ出版 昭56 一、八〇〇

〒600 京都市下京区寺町通五条上ル

藤井文政堂

電話(〇七五)三五一一九六六三
振替 大阪 七一三二一五一

1	中川乙由俳句画賛「燕ノ図」本紙85×31 一幅 翼 〇〇〇
2	伊藤東所漢詩文「老馬」本紙28×35 一幅 翼 〇〇〇
3	島地黙雷和歌書幅「露ノ身」本紙68×30 一幅 〇〇〇
4	金山樞韻一行書 少シツケ有り本紙130×32 一幅 八、〇〇〇
5	日蓮上人御一代旧跡(本館所蔵)本紙128×56 一幅 五、〇〇〇
6	彩色仏画多聞一天図 明治頃写 120×63少傷み 一枚 八、〇〇〇
7	靑面金剛之図 版彩色 江戸期 本紙54×20 一幅 三、〇〇〇
8	大般若經迦十六善神版画 少虫喰傷み有り 135×64 一枚 〇〇〇
9	青頭観音仏画下絵(仏所武藤家旧蔵) 132×54 一枚 八、〇〇〇
10	中品中生弥陀仏画下絵(仏所武藤家旧蔵) 133×87 一枚 三、〇〇〇
11	古時代天満宮御上人様図 英泉画甘泉堂版 一幅 三、〇〇〇
12	印度鉄筆画貝葉扇「歌舞樂器演奏」十六図 一本 一〇、〇〇〇
13	印度細密画 ラクダに乗る王と王妃 額 翼 〇〇〇
14	俱舍論分科ノ図 宝暦壬午年 善寂誌 一幅 三、〇〇〇
15	七福神木版お礼はりませ 一幅 五、〇〇〇
16	寿命無量得益聞書 真宗古写本 室町期 大本二〇、〇〇〇



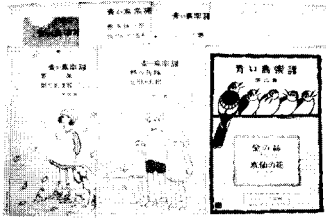
電話(〇七五) 二三一一五八八
振替 京都 五一三三二一六

〒604 京都市中京区河原町通六角下ル

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
公卿補任索引	尊卑分脉索引	※訓読日本三代実録	日本後紀索引	日本書紀索引	増補六国史 全12	大和地名大辞典 正統	日本地図帖地名索引	高遠藩総合年表	播州後藤氏の栄光	上田藩松平物語	論集千葉氏研究の諸問題	恒武平氏文良系全系図	藤原氏族の姓氏事典	奈良時代諸氏族の研究	御三家・抄(5欠)7冊	武家名家・松久家譜	新訂寛政重修諸家譜	続群書類聚 系図部	地下家伝 全6	諸家伝 上下	三訂増補 公卿辞典	山陵 上下	歴代天皇紀	皇室辞典	研究史 古代の姓	姓氏の知識	氏族母鑑 全2	系図綜覧	新家系図の合理的研究法	新撰姓氏録考證 上下	姓氏家系大辞典 全3(函欠)	
新訂増補国史大系	新訂増補国史大系	武田祐吉・佐藤謙三	吉川弘文館	吉川弘文館	朝日新聞社	地名学研究所	小川琢治	長谷川喜雄	松本多喜雄	松野喜太郎	千塚穂穂	千塚穂穂	高島正人	徳川諸家系譜 従前完成会	徳川故実叢書	増補 新訂 寛政重修 諸家譜	日本古典全集	搞保己一	正宗敦夫	坂本崇敏	山陵崇敬会	肥後・水戸部	村上周良	前之園亮一	能坂利雄	大山為起	国書刊行会	栗田 寛	太田 亮	太田 亮		
昭46	昭42	昭61	昭44	昭44	昭45	昭27	大14	昭35	昭37	昭57	昭54	昭59	昭62	昭30	昭57	昭55	昭57	昭12	昭43	昭61	昭55	昭55	昭58	昭52	昭32	昭4	昭5	昭44	昭44	昭44	昭44	
二、六〇〇	三、四〇〇	五、〇〇〇	二、五〇〇	二、四〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	八、八〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	九、〇〇〇	三、六〇〇	四、〇〇〇	二、七五〇	五、〇〇〇	二、〇〇〇	五、〇〇〇	七、〇〇〇	五、〇〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	一、一〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	六、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	

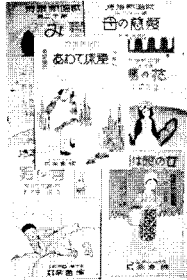
34	辨宮補任 第一	統群書類従完成会	昭和57	三,〇〇〇
35	記伊国阿比河莊史料	一一一 仲村 研	昭和51	五,五〇〇
36	吾妻鏡 吉標本 全3	国書刊行会	大4	一,〇〇〇
37	釈文吾妻鏡 全2	堀田璋左右	昭和48	三,〇〇〇
38	吾妻鏡 全4	新訂増補国史大系	昭和47	三,〇〇〇
39	吾妻鏡人名索引	御家人制研究会	昭和36	三,〇〇〇
40	玉葉 全3	名著刊行会	昭和46	二,〇〇〇
41	玉葉索引	多賀宗隆	昭和44	二,〇〇〇
42	訓読明月記 全6	今川文雄	昭和42	三,〇〇〇
43	小右記 全3	増補史料大成別巻	昭和48	三,〇〇〇
44	御堂閨白記 全3	大日本古記録	昭和27	五,〇〇〇
45	民経記 全3	大日本古記録	昭和53	八,〇〇〇
46	日本古代史論集 上下	坂本太郎博士頌寿記念 現代史学全集	昭和47	三,〇〇〇
47	日本史学論集 上	坂本太郎博士頌寿記念 現代史学全集	昭和48	六,〇〇〇
48	日本古代・中世史の地方的展開	豊田武教 国史学会	昭和55	六,五〇〇
49	日本古代史研究	関晃先生還暦記念	昭和55	六,五〇〇
50	日本古代史の諸問題	井上光貞	昭和51	三,〇〇〇
51	日本古代国家の研究	井上光貞	昭和58	七,八〇〇
52	古代史研究の世界	井上光貞	昭和39	一,〇〇〇
53	日本古代史論考	佐伯有清	昭和55	四,〇〇〇
54	日本古代国家成立史論	吉田 晶	昭和55	三,〇〇〇
55	日本古代国家論究	上田正昭	昭和52	五,五〇〇
56	古代国家史研究の歩み	鈴木靖民	昭和58	一,〇〇〇
57	日本古代国家と律令制	武光 誠	昭和59	三,八〇〇
58	上代政治社会の研究	陸 陵朗	昭和53	三,〇〇〇
59	日本古代の政治と社会	佐伯有清	昭和53	五,八〇〇
60	※日本古代政治史研究	岸 俊男	昭和59	三,〇〇〇
61	※日本古代政治史論	門脇隆二	昭和56	三,〇〇〇
62	古代末期政治史序説	石母田正	昭和55	四,四〇〇
63	※日本古代制度史論	亀田隆之	昭和55	二,六〇〇
64	日本古代官僚制の研究	早川庄八	昭和61	四,五〇〇
65	日本古代官位制度の基礎的研究	渡辺直彦	昭和53	四,四〇〇
66	日本古代衛府制度の研究	笹山晴生	昭和60	四,四〇〇
67	日本古代兵制史の研究	直木孝次郎	昭和60	二,〇〇〇
68	※日本古代籍帳の研究	岸 俊男	昭和58	三,〇〇〇
69	※日本古代籍帳制度論	平田耿二	昭和58	六,〇〇〇
70	日本古代共同体的研究	門脇隆二	昭和61	二,〇〇〇
71	共同体的研究 (上)	古代学協会	昭和33	八,五〇〇
72	日本古代氏族の研究	佐伯有清	昭和60	四,五〇〇

73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	
日本古代の氏の構造	日本古代の氏族と天皇	日本古代の氏族と祭祀	古代氏族の性格と伝承	古代氏族伝承の研究	日本古代氏族伝承の研究	日本古代木簡の研究	古代寺院の成立と展開	日本古代仏師の研究	日本古代の色彩と染	※日本古代手工業史の研究	日本律令成立の研究	※律令国家成立史の研究	律令国家の展開	律令国家と貴族社会	律令財政史の研究	※律令官人制の研究	郡司の研究	班田收授法の研究	聖徳太子の研究	萬葉の遣唐使船	飛鳥奈良時代の研究	奈良時代史の諸問題	奈良朝仏教史の研究	東大寺論叢	東大寺要録	平安前期政治史序説	平安初期政治史研究	平安貴族社会の研究	平安時代軍事制度の研究	平安人物志(上)	王朝文化の諸相	王朝の映像	王朝史の軌跡	高野山鎮荘園の研究	足利一門守護発展史の研究	近代封建制成立の研究	近代民衆宗教史の研究	※印は、赤線、書き込みが少々あります。
義江明子	直木孝次郎	阿部武彦	志田諱一	武谷久雄	日野 昭	東野治之	鶴岡静夫	田中嗣人	前田雨城	浅香山木	押部佳周	黛 弘道	角田文衛著作集	正統	村尾次郎	野村忠夫	米田雄介	虎尾俊哉	大野助達之	高木 博	直木孝次郎	直木孝次郎	井上 薫	筒井英俊	簡井英俊	佐藤宗諱	大塚徳郎	橋本義彦	井上満郎	角田文衛著作集	角田文衛	角田文衛	角田文衛	江頭恒治	小川 信	竹内理三	村上重良	
昭 61	昭 56	昭 56	昭 59	昭 60	昭 46	昭 57	昭 58	昭 50	昭 58	昭 59	昭 56	昭 57	昭 59	昭 53	昭 53	昭 53	昭 58	昭 39	昭 53	昭 59	昭 56	昭 58	昭 61	昭 48	昭 57	昭 57	昭 53	昭 51	昭 56	昭 59	昭 57	昭 58	昭 47	昭 57	昭 38	昭 30	昭 30	
六、四〇〇	三、三〇〇	四、五〇〇	七、四〇〇	一八、〇〇〇	三、六〇〇	五、〇〇〇	六、八〇〇	五、五〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇	四、二〇〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇	三、五〇〇	四、二〇〇	六、〇〇〇	三、六〇〇	五、八〇〇	二、〇七二	二、五〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇	三、四〇〇	三、五〇〇	四、五〇〇	五、五〇〇	三、四〇〇	二、〇〇〇	三、六〇〇	四、八〇〇	五、〇〇〇	六、六〇〇	三、八〇〇	三、〇〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇	七、五〇〇	



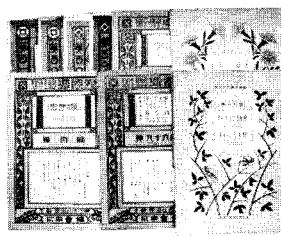
3. 青い鳥楽譜

佐々木すぐる編
(まさを、齒ら)
第2～12篇大 $\frac{13}{14}$
11部 ¥50,000



2. 特撰新唱歌

成楽会 大13
(白秋「あわて床屋」他)
第12—21編
内7部 ¥28,000



1. 新特撰樂譜

成楽会編大¹¹₁₃
(八十・蔵・雨情ら)
第70—110篇の内
32部 ¥48,000

604

京都市中京区壬生下溝町七十一
(仏光寺通西新道東入)

京極書店

電話(〇七五)三二五一五六〇
振替 京都 六一二二四八八

[illegible]

530

大阪市北区芝田一丁目六番二号
阪急古書のまち

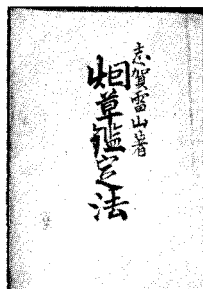
臨川書店 大阪店

電話
（六）
三
七
四
〇
〇
番



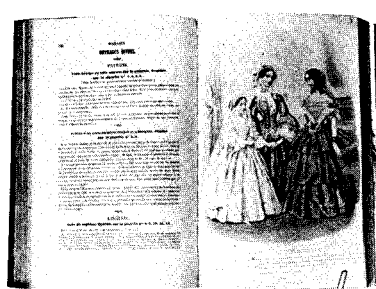
3. 花かんざし

表紙共木版6枚入
高橋掬太郎 文禮社
昭22 ￥78,000



2. 煙草鑑定法

志賀雷山 仮86頁
明31 ¥15,000



1. MAGASIN DES DEMOISELLES

1854—1855 彩色銅版14枚入
¥85,000

606

京都市左京区
白川ビル1F

文庫堂

電話(〇七五) 七二一四四九
振替 京都 二一四二五七九

〒604 京都市中京区丸太町通千本西入南側

八木書店古書部

電話(〇七五)八一—一三八九〇

- 1 武田玄伯書狀 花押入一通 元禄7 八〇〇〇
 2 木村斯光筆 宝珠之図一紙 契月門京住 八〇〇〇
 3 聖徳太子墨鉄名号六字名号法華經一行墨摺一紙珍品 八〇〇〇
 4 浄土門主五山和上筆 一行書一紙 八〇〇〇
 5 高野山主沙門諦見二行一紙 八〇〇〇
 6 崑崙筆 肉筆南園初步向手本一卷 八〇〇〇
 7 濃州岐阜遠道人 二行詩一紙 虫入 八〇〇〇
 8 補陀落山門通寺略縁起 写本 3丁 江戸末 八〇〇〇
 9 仏通山大門和尚筆 極楽往生の詞一紙 八〇〇〇
 10 29坐觀進能頼朝公御免鎌倉の住入頼兼の写本 嘉永6 八〇〇〇
 11 南北筆 農家ほととぎ之図一絹傷有 江戸末 八〇〇〇
 12 池玉瀾筆 竹之図一紙 上部小欠 天明4没 八〇〇〇
 13 如意谷鉄臣筆 二行詩一紙 八〇〇〇
 14 伏見宮邦彦王殿下 一紙 習作 八〇〇〇
 15 桂月筆 墨絵圓贊一紙 上部小欠 八〇〇〇
 16 高野山管長宝弘老師無事一行一紙 五〇〇〇
 17 岡田米山人筆 農家梅樹之図一絹18cm×28cm 五〇〇〇
 18 月湖大友清筆横物一紙長崎人能代龍斐門 天明没 五〇〇〇
 19 天台山顯隆老師筆 横物四字一紙 中国僧 五〇〇〇
 20 短冊圓泰寺管長 稲葉心田老師 五〇〇〇
 21 杉雨青山筆 二行詩一紙 八〇〇〇
 22 模秋山占夢筆 僧と童之図一紙 江戸末 八〇〇〇
 23 鶴之図一紙 筆者不詳 虫入 江戸中 八〇〇〇
 24 宗掬筆 書下し一枚 五〇〇〇
 25 南北筆 無署名 下女面贊一紙 五〇〇〇
 26 翠軒筆 江馬天江筆 横物一紙 八〇〇〇
 27 桂石筆 瀧之図一紙 墨絵 八〇〇〇
 28 玉舎春暉筆 うさぎ松図一紙 鶴之間各一枚 八〇〇〇
 29 閑楽斎筆 竹之図一紙 八〇〇〇
 30 南北筆 無署名 床机美人夕涼面贊一紙 五〇〇〇
 31 如是筆 どの庭も椿も咲かせて法然院 一紙 八〇〇〇
 32 從三位重記筆 富士面贊一紙 八〇〇〇
 33 瑤石筆 南画一紙 傷物一紙 江戸中 八〇〇〇

- 34 石景 天山外史筆 書下し一紙 三、八〇〇
 35 桂堂筆 大法輪 横物3字一紙 昭11 三、八〇〇
 36 赤城筆 小品七言詩一紙 三、八〇〇
 37 伯爵 大木遠吉筆 横物一紙 三、八〇〇
 38 鞍馬山管長香雲師筆横物一紙 三、八〇〇
 39 二洲石橋毅筆 書下し一紙 三、八〇〇
 40 韓國洪撫杓筆 日鮮語学校設立之件書信一通 八、〇〇〇
 41 草木植作様之卷 地錦抄卷6 元禄8 八、〇〇〇
 42 文東画 木版 官女之図一紙 五、〇〇〇
 43 金剛壽命陀羅尼經 伝怒写本 安永6 五、〇〇〇
 44 諸葛孔明像 一紙肉筆古面筆者不詳 一五、〇〇〇
 45 城州相樂郡椿井生徳平筑前介中風薬広告并能 江戸末 三、八〇〇
 46 傷寒論 琴天先生并北州先生説写本 江戸末 三、八〇〇
 47 絵図訓蒙必読教児経 14丁上海民国刊 二、五〇〇
 48 関註百家姓 6丁 北京民国刊 二、五〇〇
 49 周公解夢全書 夢占い易書9丁上海民国刊 三、八〇〇
 50 校正麻衣相法全編 人相易書 上海民国刊 三、八〇〇
 51 絵図増註千字文 6丁 上海民国刊 二、五〇〇
 52 絵図紅樓夢 92頁 上海民国刊 二、五〇〇
 53 筆花医鏡 中国医書 上海民国刊 二、五〇〇
 54 牙牌数八種 観音靈籤等 易書八種21丁民国刊 二、五〇〇
 55 五方元音大全 新增共和適用白話尺牘民国刊 二、五〇〇
 56 絵図増註歴史三字経 15丁 民国刊 二、五〇〇
 57 下筆術 断易大全 絵図金錢課 三、八〇〇
 58 堪輿妙術 通玄鬼靈經 8丁 上海民国刊 三、八〇〇
 59 絵図四字鑑略註釈24丁 上海民国刊 二、五〇〇
 60 神農本草經註20丁 長樂陣修園著上海刊 二、五〇〇
 61 神農本草經 21丁 長樂陣修園著上海刊 二、五〇〇
 62 神農本草經 21丁 長樂陣修園著上海刊 二、五〇〇
 63 神農本草經 21丁 長樂陣修園著上海刊 二、五〇〇
 64 神農本草經 21丁 長樂陣修園著上海刊 二、五〇〇
 65 神農本草經 21丁 長樂陣修園著上海刊 二、五〇〇
 66 神農本草經 21丁 長樂陣修園著上海刊 二、五〇〇
 67 神農本草經 21丁 長樂陣修園著上海刊 二、五〇〇
 68 神農本草經 21丁 長樂陣修園著上海刊 二、五〇〇
 69 神農本草經 21丁 長樂陣修園著上海刊 二、五〇〇
 70 神農本草經 21丁 長樂陣修園著上海刊 二、五〇〇
 71 神農本草經 21丁 長樂陣修園著上海刊 二、五〇〇
 72 神農本草經 21丁 長樂陣修園著上海刊 二、五〇〇

- 73 選名大字典 乾の巻 非売品 谷川蘇山ガリ版 昭2 五、〇〇〇
 74 種痘龜鑑 大学助教久我述東京医学学校刊 明4 五、〇〇〇
 75 丸散錄 漢方薬調合書 写本 五、〇〇〇
 76 深密解脫經 一、五卷合本 三蔵法師中国 民国4 五、〇〇〇
 77 腸繫則歳 一峰書 一紙 虫入 五、〇〇〇
 78 松田霞城肉筆 習画 手本 一括 八、〇〇〇
 79 照山筆 雲龍風虎一行一紙 三、〇〇〇
 80 春齊筆 木に鳥之図一紙 三、〇〇〇
 81 室生犀星筆 黄色松 詩 原稿紙一紙 昭10頃 三、〇〇〇
 82 新編水滸伝 卷10 北齊画 文化4 二、〇〇〇
 83 丹生川上神社官幣大社仰出候 布令書一紙 明4 二、〇〇〇
 84 丹波山家集 山城柳生泉都府庁へ管轄布令書一紙 明4 二、〇〇〇
 85 園部景常轉京郡府庁へ 布令書一紙 明4 二、〇〇〇
 86 鑑定書 肉筆 石龍事務所一代の命運25丁 大12 三、八〇〇
 87 易学国字卦 菊岡大観 明19 二、〇〇〇
 88 卜筮早考 平沢随貞 天保15 二、五〇〇
 89 三字経 古版 二、五〇〇
 90 明治天皇御集謹解 信綱 初版 昭16 二、〇〇〇
 91 臨牀医典 薬名薬品用量付 筒井著 昭3 三、八〇〇
 92 日用吉凶 日用辨惑口訣 虎之巻 文化6 三、〇〇〇
 93 幾何新論 宮川保 全訳 明16 二、〇〇〇
 94 序の舞 森田流正歌 昭7 二、〇〇〇
 95 笑話 榎書店 初版 昭16 二、〇〇〇
 96 忠霊 観世流新曲 初版 昭18 二、〇〇〇
 97 皇軍鑑 観世流新曲 初版 昭19 二、〇〇〇
 98 東方明秘伝置文 易書 和本 明19 二、〇〇〇
 99 鍼灸重宝記綱目 後刷 寛延2 三、八〇〇
 100 靈感透熱法相伝秘書 熊本市石坂靈覚 昭5 二、〇〇〇
 101 藤原信実筆 模本36歌仙像 18葉有 大12 二、八〇〇
 102 近思録 佐藤直方書 表裏欠 備後人 享保3 三、〇〇〇
 103 祭行列絵図 一卷 多賀神社祭? 江戸末 八、〇〇〇
 104 濃州養老両盡水略録 墨摺5丁 写本 江保10 三、八〇〇
 105 金輪勸請 真言秘法 5丁 志仁2 三、〇〇〇
 106 壬生村外畑地絵図 地図八面 見廻り方旧蔵江戸末 元禄10 二、五〇〇
 107 禁裏院中并宮堂上方手始御使之記禁裏贈答名 寛永頃 五、〇〇〇
 108 肝斤主殿筆 上林宛 書狀一通 江戸中 二、五〇〇
 109 色紙准后様筆 きりぎりすなくや霜夜のみじか夜 文政9 三、〇〇〇
 110 香道字計比 香の伝書一通 江戸中 三、〇〇〇
 111 青蓮院尊證親王36歌仙歌巻写一卷 江戸中 三、〇〇〇

〒604 京都市中京区河原町通三条上ル

(朝日会館前)

キクオ書店

電話(〇七五)二二一七六二四
振替 京都 八一七六四〇

1	東洋史研究 創刊25巻合本20冊 復刻	昭57	三六〇〇〇
2	吉川幸次郎全集 全24冊 筑摩書店	昭48	六〇〇〇〇
3	新村出全集 全十五冊 筑摩書房	昭46	六〇〇〇〇
4	日本歴史大辞典(縮刷版) 五冊揃	昭3	六〇〇〇〇
5	国史大辞典(縮刷版) 五冊揃	昭3	六〇〇〇〇
6	古事類苑 五十一冊揃 吉川弘文館	昭51	四〇〇〇〇
7	日本史関係雑誌文獻総覧 二冊	昭59	三〇〇〇〇
8	末永先生古稀記念 古代学論叢 函欠	昭42	四〇〇〇〇
9	角田文衛博士古稀記念 古代学論叢 函欠	昭58	二五〇〇〇
10	赤松俊秀教授退官記念 国史論集	昭47	二五〇〇〇
11	斎藤先生古稀祝賀記念論文集 刀江書院	昭12	九五〇〇
12	三宅博士古稀祝賀記念論文集 岡書院	昭4	二五〇〇〇
13	随感隨録 史伝史話 正統二冊 文友社	昭14	九〇〇〇
14	山本考古室目録・図録 二冊 岡書院	昭9	四〇〇〇〇
15	縄文式 小椋修賢編 大判60枚図版映入	昭36	二五〇〇〇
16	古墳の航空大観 図版共三冊揃 学生社	昭50	八〇〇〇〇
17	大和国古墳群調査 秋山日出雄	昭60	二六〇〇〇
18	日本文化研究 九冊揃 新潮社	昭33	二〇〇〇〇
19	新訂 寛政重修諸家譜 二十六冊揃	昭41	二〇〇〇〇
20	新撰姓氏録考證 栗田 寛 吉川弘文館	昭44	二六〇〇〇
21	新撰姓氏録の研究 索引・論考篇	昭59	六五〇〇〇
22	姓氏明鑑	大1	二九〇〇〇
23	中村直勝博士蒐集古文書 博士古稀記念	昭35	二〇〇〇〇
24	東大寺文書目録(一)(四) 四冊	昭54	一八〇〇〇
25	図録東寺百合文書(正統) 二冊	昭45	三〇〇〇〇
26	八坂神社記録・文書 四冊揃	昭45	三〇〇〇〇
27	越中立山古文書 立山開発鉄道創立記念	昭37	一五〇〇〇
28	丹鶴義書 図譜共九冊揃 図書刊行会	明45	二〇〇〇〇
29	日本上代に於ける社会組織の研究 二冊	昭4	二〇〇〇〇
30	日本荘園経済史論 江頭恒治 有斐閣	昭17	二〇〇〇〇
31	庄園村落の構造 柴田 実 創元社	昭30	三〇〇〇〇
32	寺領荘園の研究 竹内理三 歟傍書房	昭17	一五〇〇〇
33	武家時代社会の研究 牧野信之介	昭18	七五〇〇〇

34	百姓一揆の研究 黒正 巖 岩波書店	昭3	一五〇〇〇
35	日本近世史の地方的展開 吉川弘文館	昭48	二〇〇〇〇
36	赤穂義士史料 京都教育会編 二冊	昭6	四〇〇〇〇
37	京都維新史料 中央義士会編 大判映入	昭3	三〇〇〇〇
38	図録維新と薩摩 柴田融・福岡武雄編	昭43	九五〇〇〇
39	西南記伝 黒龍会本部編 六冊揃	明41	四〇〇〇〇
40	維新史 六冊揃 維新史料編纂事務局	昭14	四〇〇〇〇
41	明治維新史研究講座 別巻七冊揃	昭43	二五〇〇〇
42	維新農民蜂起譚 小野武夫編 改造社	昭5	八〇〇〇〇
43	幕末明治文化変遷史(正統) 大判二冊	昭4	三〇〇〇〇
44	日本政党発達史 上野熊蔵 博愛館	大7	八五〇〇〇
45	大日本政党史 若林 清 市町村雑誌社	大2	八〇〇〇〇
46	関大東西学術研究所創立30周年記念論集	昭56	二五〇〇〇
47	増訂 海外交通史話 辻 善之助	昭17	九〇〇〇〇
48	日の丸船隊史話 山高五郎 千歳書房	昭17	九八〇〇〇
49	日本外交史 本編34冊別巻2冊	大12	五〇〇〇〇
50	日支間立支那一箇スル日本及他国間ノ条約	昭18	一五〇〇〇
51	郷土を中心とした海外発展史料展図録	昭44	一八〇〇〇
52	平戸オランダ商館日記 全四冊 岩波	大5	六〇〇〇〇
53	徳川初期の海外貿易家 川島元次郎	昭37	二五〇〇〇
54	日本漂流漂着史料 気象研究所	昭17	四〇〇〇〇
55	日佛文化(一)(三) 白水社	昭17	四〇〇〇〇
56	日英交通史 幸田成友 岩波書店	昭17	一五〇〇〇
57	日英交通史之研究 武藤長蔵 内外出版	昭13	一六五〇〇
58	シボルト研究 岩波書店	昭19	一六五〇〇
59	日本渡航記 セーリス・村川堅固訳	昭36	一五〇〇〇
60	日本技術史研究 吉田光邦 学芸出版	昭15	三〇〇〇〇
61	日本珠算史 溝江 清 同文館	昭9	三〇〇〇〇
62	江戸時代の科学 東京科学博物館	昭38	二〇〇〇〇
63	新訂 日本英学史の研究 豊田 実	昭15	一八〇〇〇
64	阿蘭陀始創エリケル研究原理(他) 三冊	昭47	三〇〇〇〇
65	原本複製版 蘭学史始(他) 七冊	昭47	三〇〇〇〇
66	増補 日本医事大表 中野操 思文閣	昭45	三〇〇〇〇
67	京都の医学史上 本編・資料編 二冊	昭40	一七〇〇〇
68	薩藩医学史上 永徳緑峰 下巻未刊	昭40	一七〇〇〇
69	日本産科学史 緒方正清 元版	大8	三〇〇〇〇
70	よはひ草 索引共六冊揃・復刻版	昭46	三〇〇〇〇
71	浪華醫家名鑑 和装二冊映	昭15	二〇〇〇〇

学術論文抜刷

72	支那の孝道 桑原隲蔵	昭2	二〇〇〇〇
73	支那帝王説話に対する一考察 出石誠彦	昭10	一八〇〇〇
74	金朝勃極烈制度考(上下二冊) 三上次男	昭18	一八〇〇〇
75	鬼神考 出石誠彦 東洋学報	昭10	一八〇〇〇
76	鹿兒島のキリシタン ラウレス 史学	昭10	一八〇〇〇
77	吉利支丹教育の我が国文化に対する貢献	昭45	一〇〇〇〇
78	日本文学表現技巧の展開と平家物語	昭45	一〇〇〇〇
79	分売各冊八〇〇〇円 日鮮交通と古代の信仰(藤田元春)	昭45	一〇〇〇〇
80	佐渡の野穀と広恵倉(他) 上田藤十郎・他	昭45	一〇〇〇〇
81	弁(若松常齡) 〇テイダの語源(亀井孝) 〇擬声語の変	昭45	一〇〇〇〇
82	化(寿岳章子) 〇色葉字類抄の疊字門の語(山田俊雄)	昭45	一〇〇〇〇
83	解題虎清本と虎明本(林田明) 〇未刊浄瑠璃芸論集(演	昭45	一〇〇〇〇
84	劇研) 〇日蓮と神祇(藤井学)	昭45	一〇〇〇〇
85	分売各冊七〇〇〇円 〇広島心学者略伝(広島心学資料展覧	昭45	一〇〇〇〇
86	会) 〇八坂神社と京都文化(宮地直一) 〇八坂神社と祇	昭45	一〇〇〇〇
87	園会(中村直勝) 〇頭註親鸞記(有川武彦) 〇松峽松室	昭45	一〇〇〇〇
88	熙載年譜(宗政五十緒) 〇徳川時代に於ける江戸大阪間	昭45	一〇〇〇〇
89	の金銀貸対立に就て(松好貞夫) 〇鬼面(佐竹昭広) 〇	昭45	一〇〇〇〇
90	諺の伝承と本義の追求(中川芳雄) 〇古エヂナ神話篇研	昭45	一〇〇〇〇
91	究(六鹿英治) 〇音画接辞「くな」の伝流(中川) 〇萬	昭45	一〇〇〇〇
92	葉集(葦葉宮) 考(吉永登) 〇旅人憶良とその周囲・他	昭45	一〇〇〇〇
93	(土屋文明・他) 〇再説「凱陣八島」は西鶴の作なり(森	昭45	一〇〇〇〇
94	修) 〇新出資料と羅越国問題(杉本直次郎)	昭45	一〇〇〇〇
95	分売各冊五〇〇〇円 〇日本佛教と京都(京都市) 〇素戔鳴	昭45	一〇〇〇〇
96	尊の信仰(三品彰英) 〇孝明天皇の御聖徳(天皇奉祀奉	昭45	一〇〇〇〇
97	賛会) 〇類聚名義抄小論(吉田金彦) 〇墨斎・橋本宗吉	昭45	一〇〇〇〇
98	小伝(中野操) 〇日本芸術の特質(植田寿蔵) 〇南山和	昭45	一〇〇〇〇
99	尚祥勝塔と無縫塔形成 〇山城在銘石塔年表 〇九州に於	昭45	一〇〇〇〇
100	ける特殊五輪石塔の二例(以上、川勝政次郎) 〇奥院石塔	昭45	一〇〇〇〇
101	を中心とする高野山信仰の諸問題(日野西真定) 〇「和	昭45	一〇〇〇〇
102	泉往来」について(遠藤嘉基) 〇「多麻波夜須武庫」の	昭45	一〇〇〇〇
103	解義(入江清) 〇山口県に於ける明治初年上級学校の経	昭45	一〇〇〇〇
104	営に就いて(竹中靖一) 〇近親相姦と男色(中禁喜雄)	昭45	一〇〇〇〇
105	狂言の文法(寿岳) 〇虎清本狂言に見える「候ふ」(林	昭45	一〇〇〇〇
106	田) 〇素謡の起源とその変遷(井上嘉介) 〇語彙の構造	昭45	一〇〇〇〇
107	と思考の形態(佐竹) 〇副詞ツヒニの変遷と展開(井手	昭45	一〇〇〇〇
108	主) 〇御城連歌連案勤仕稿(福井毅) 〇芥川龍之介「地	昭45	一〇〇〇〇
109	獄変」の構造(宗政) 〇安南と朝衡(同) 〇同代(杉本)	昭45	一〇〇〇〇

千606 京都市左京区浄土寺西田町八十一
法律・経済・思想
一般書
竹岡書店
電話(〇七五) 七六一四四五四
振替 京都 五一四二六一二

品切・絶版文庫特集 岩波文庫

1	アレキサンドリス 史的に見たる科学的宇宙観の変遷	昭31	二、〇〇〇
2	アリストパネス 鳥	昭44	一、八〇〇
3	エリス 夢の世界	昭16	二、〇〇〇
4	エンゲルス 自然の弁証法 田辺振太郎訳 全2冊	昭37	二、〇〇〇
5	オシアン (ケルト民族の古歌) 中村徳三郎訳 全2冊	昭46	二、〇〇〇
6	カウツキー フランクス革命時代における階級対立	昭44	六〇〇
7	カロサドクトル ビュルゲルの運命 手塚富雄訳	昭28	一、五〇〇
8	キケロ 友情について 水谷九郎他訳	昭26	一、〇〇〇
9	クロオチエ 歴史の理論と歴史 羽仁五郎	昭27	一、〇〇〇
10	ゴッデル 経済の本質と根本概念 福井校樹、西川藤原訳	昭17	一、〇〇〇
11	ゴンチヤロフ 断崖 井上満 4冊(第四巻欠)	昭27	二、五〇〇
12	サンド 彼女と彼 川崎竹一訳	昭29	一、五〇〇
13	シエルラ 子守唄 永田寛定訳	昭2	八〇〇
14	シュトルム 海の彼方より聖ユルゲンにて	昭45	一、五〇〇
15	シュライエル マッヘン 宗教論 佐野、石井訳	昭45	一、五〇〇
16	スウヴェストウ ル根根の哲人 木村太郎訳	昭15	六〇〇
17	ストリントベルク 稲妻 小宮豊隆訳	昭2	八〇〇
18	ストリントベルク 父 小宮豊隆訳	昭13	一、〇〇〇
19	セネカ 幸福なる生活について 樋口勝彦訳	昭43	一、五〇〇
20	デエイムズ デイジー・ミラー 渡辺純他訳	昭15	六〇〇
21	チュルゴ 富に関する省察 永田清訳	昭11	一、五〇〇
22	ディルタイ 哲学の本質 戸田三郎訳	昭10	一、〇〇〇
23	テニスン イン・メモリアム 入江直祐訳	昭29	八〇〇
24	トルストイ 少年時代 米川正夫訳	昭12	六〇〇
25	バーンズ 詩集 中村為治訳	昭3	六〇〇
26	バニヤン 天路歷程 竹友藻風訳 全2冊	昭44	三、五〇〇
27	ヘーゲル 精神哲学 船山信一訳 全2冊	昭49	三、五〇〇
28	ヘーゲル 政治論文集 金子武蔵訳 全2冊(底書込)	昭45	三、五〇〇
29	フイール デイニング トム・ジョウンス 朱牟田夏雄訳 全4冊	昭41	六、〇〇〇

30	ブッセ イエス 林 達夫訳	昭7	一、五〇〇
31	フラートン 通貨論 福田長三訳	昭16	二、五〇〇
32	ブラトン プロタゴラス 菊池慧一郎訳	昭16	一、五〇〇
33	ブリュンチエール 佛蘭西文学史序説 関根秀雄訳	昭15	一、五〇〇
34	ラクロ 危険な関係 伊吹武彦 全2冊	昭41	三、〇〇〇
35	リカドオ 経済学及課税の原理 小泉信二訳	昭14	八〇〇
36	リップス 心理学原論 大脇義一訳	昭14	二、五〇〇
37	リルケ ロダン 高安国世訳	昭18	一、二〇〇
38	メンガー 経済学の方法に関する研究 吉田福井	昭25	一、〇〇〇
39	ルナン イエス傳 津田 稔	昭18	二、五〇〇
40	訓詁 日本書紀 黒板勝美編 中、下巻	昭18	二、五〇〇
41	毛吹草 新村出校樹 竹内若校訂	昭18	四、〇〇〇
42	憲法義解 伊藤博文 宮沢俊義校註	昭17	一、〇〇〇
43	項羽と劉邦 長興善郎	昭26	二、〇〇〇
44	弘道館記述義 藤田東湖 塚本勝美訳註	昭16	一、〇〇〇
45	忍ぶの惣太 縮屋新助 黙阿弥河竹校訂(少汚れ)	昭14	四、〇〇〇
46	正法眼蔵 道元禪師 衛藤即應校註 2冊(下巻欠)	昭14	四、〇〇〇
47	自叙伝 河上 肇 全5冊	昭18	六〇〇
48	漱石小品集 夏目漱石 (少汚れ)	昭18	六〇〇
49	中村憲吉歌集 齊藤茂吉、土屋文明選	昭24	二、〇〇〇
50	傳心法要 黄檗断際禪師 宇井伯壽訳註	昭19	四、〇〇〇
51	風土記 武田祐吉編 (印有)	昭17	二、五〇〇
52	明治天皇御集 宮内省蔵版	昭20	一、〇〇〇
53	朝鮮民謡選 アテネ文庫 金 素雲	昭28	一、五〇〇
54	キエルケゴール 野の百合・空の鳥 久山康訳	昭24	四、〇〇〇
55	キエルケゴール 愛は多くの罪を掩ふ 久山康	昭23	四、〇〇〇
56	法隆寺 浅野 清	昭24	五〇〇
57	日本の財閥 土屋喬雄	昭31	五〇〇
58	知られざるゲーテ 大山定一訳	昭24	六〇〇
59	実存と虚無と煩瑣 和辻 高坂 西谷 務台	昭30	六〇〇
60	ミレエ 植田壽蔵	昭24	六〇〇
61	ベルヂャエフ 宮崎信彦	昭24	八〇〇
62	ロダン 深田康算	昭24	六〇〇
63	レーニンからスターリンへ 前芝確三	昭24	六〇〇
64	ブルニキ主義とマルクス主義 対馬雄行	昭25	六〇〇
65	中国共産党 小島祐馬	昭25	八〇〇
66	適度人口 美濃口時次郎	昭25	六〇〇
67	パリ随想 湯浅年子(表紙少痛)	昭25	五〇〇

68	社会思想史 猪木正道(少線引)	昭29	五〇〇
69	デカルト 澤瀉久敬	昭25	六〇〇
70	源氏物語 早坂禮吾	昭31	八〇〇
71	知られざる漱石 小宮豊隆	昭26	五〇〇
72	中国文学の門 吉川幸次郎	昭26	五〇〇
73	リルケ 谷 友幸(痛み本)	昭26	五〇〇
74	憲法と近代的人間 末川 博	昭27	一、〇〇〇
75	ヘーゲル 松村一人、甘粕石介	昭27	八〇〇
76	新古今集 久松潜一	昭30	六〇〇
77	中央アジア史 波多野乾一	昭31	八〇〇
78	中国の国民党と共産党 中屋健一	昭30	八〇〇
79	アメリカ独立革命 清水 泰	昭30	八〇〇
80	堤中納言物語 中村 元	昭30	八〇〇
81	インドの古代社会 前島信次	昭30	八〇〇
82	サラセン文化 増井経夫	昭31	一、二〇〇
83	アヘン戦争と太平天国		
84	角川文庫		
85	ゲーテ ヴィルヘルム・マイステルの修業時代	昭40	二、五〇〇
86	フエイ ケネデイ 佐藤通次 全2冊	昭40	八〇〇
87	ラム シェイクスピア物語 大原寿人	昭43	八〇〇
88	英米文学史 村岡 勇訳	昭41	一、五〇〇
89	社会的人間論 清水幾太郎	昭29	五〇〇
90	新潮文庫		
91	シャトーブリヤン アタラ・ルネ 田辺貞之助訳	昭39	六〇〇
92	ピエール ボールとウィルジニ 田辺貞之助訳	昭41	六〇〇
93	メリメ コロンバ 三好達治訳	昭41	八〇〇
94	モロア アメリカ史 鈴木福一訳 全2冊	昭40	三、〇〇〇
95	その他文庫		
96	現代俳句の批判と鑑賞 飯田蛇笏(創元)	昭26	一、五〇〇
97	自然主義文学盛衰史 正宗白鳥(創元)	昭26	一、〇〇〇
98	丁玲作品集 尾坂徳司、岡本隆三訳(青木)	昭28	一、五〇〇
99	日本社会政策史 風早八十二 全2冊(青木)	昭26	一、四〇〇
100	整風文献 毛沢東・劉少奇(国民)	昭14	二、〇〇〇
101	日本開花小史 田口卯吉訳 (改造)	昭26	一、五〇〇
102	スターリン 猪木正道 (教養)	昭27	一、五〇〇
103	年わかき友に 塚本虎二 (三一)	昭27	一、〇〇〇

〒600 京都市下京区七条通堀川角

電話(〇七五) 三六一―七六九五
振替 京都 一一一七九

1	無宗教時代と仏教	二葉憲香	昭和36	二五〇〇
2	釈迦像乃研究	津田敬武	明治37	五、〇〇〇
3	小乗仏教史論	舟橋元哉	昭和17	八、〇〇〇
4	俱舍教義	高木俊一	昭和36	一、〇〇〇
5	原始淨土思想の研究	藤田宏達	昭和61	二、〇〇〇
6	淨土教の起原及發達	望月信亨	昭和48	二、〇〇〇
7	阿彌陀仏の研究	矢吹慶輝	昭和56	一、〇〇〇
8	中国淨土教理史	望月信亨	昭和53	三、〇〇〇
9	中国淨土教史の研究	小笠原宣秀	昭和26	六、〇〇〇
10	日本仏教思想の展開	家永三郎編	昭和31	三、〇〇〇
11	大乘空の実践	毎田周一	昭和28	三、五〇〇
12	智證大師	天台宗寺門派遠忌局	昭和12	五、〇〇〇
13	訂正 日本天台宗年表	渋谷慈慈編	昭和48	七、〇〇〇
14	日本仏教の開展とその基調	裕慈弘 全二冊	昭和43	二七、〇〇〇
15	天台大師の研究	佐藤哲英	昭和54	二五、〇〇〇
16	純天台大師の研究	佐藤哲英	昭和56	二五、〇〇〇
17	天台教学概論 教判論	佐々木憲徳	昭和14	七、〇〇〇
18	天台教学	佐々木憲徳	昭和38	三、〇〇〇
19	天台の教義と信仰	二宮守人	昭和52	五、五〇〇
20	天台四教儀講録	滄空俊洲	昭和52	一、〇〇〇
21	天台四教儀講話	境野黄洋	昭和52	六、五〇〇
22	天台淨土教史	山口光	昭和53	四、五〇〇
23	善導大師	椎尾弁匡	昭和3	三、五〇〇
24	五重伝法口訣	西誉上人五百向遠忌	昭和15	六、〇〇〇
25	信仰と実践	岡本諦承	昭和3	三、〇〇〇
26	念仏の形而上学	青木敬鷹	昭和56	二、五〇〇
27	観音に生きる道	清水谷善照	昭和12	四、〇〇〇
28	愚暗記返礼の研究	藤季 澄	昭和10	四、五〇〇
29	増加図書分類目録	眞宗 之部	昭和10	八、〇〇〇
30	THE YOUNG EAST A MONTHLY REVIEW OF BUDDHIST LIFE & THOUGHT 1925-1944 REPRINT 7 VOLS.	明 眞享五序	二〇〇〇	二〇、〇〇〇
31	仏教世紀記 創	佐田介石	明治12	五、五〇〇
32	続集古今仏道論衡図 絵入	明 眞享五序	二〇〇〇	二〇、〇〇〇

〒612 京都市伏見区深草直違橋北一―四七

電話（〇七五）六四三一六七五八
振替 京都 〇一五二三三九

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
特別展覧会	ザオ・ウーキー展	翼とアロベラ理論	旅人芭蕉抄	西国観音霊場図會	釋迦御一代記図繪	休御一代記図會	鮎川	一茶と良寛と芭蕉	新修良寛	ダガバジンギザ物語	ダガ宣言	父子以前	戦争と日本阿片史	中村竹四郎	古陶の味	素拙の実技	裁縫秘術総要	裁縫おさく物	折紙と結び	将棋大全	折紙と結び	将棋大全	現代児童話の研究	童謡及児童話の研究	永壁画集	神変大菩薩	紙とともに百十年	西陣機業概観	西陣機業の歴史	仏像鑑賞の知識	み仏の心を刻む	
鉄斎		ユキヲイト	荻原井泉水	全5冊	全2冊	全2冊	銅版	相馬御風	東郷豊治	小梅	初版	少赤線	二反長半	便利堂内同刊行会	千吉株式会社	石井柏亭	伊藤文子	山口和喜	山口和喜	坂田三吉	前田文進堂	松村武雄	昭10	昭10	昭10	昭10	昭10	昭10	昭10	昭10	昭10	昭10
京都国立博物館		雄山閣	豊書房	銅版	銅版	銅版	銅版	南北書園	東京創元新社	函なし	小柳	鈴村記	すばる	富書店	千吉株式会社	アトリエ工	大倉書店	大倉書店	巧人社	前田文進堂	上屋出版部	大阪毎日	昭10	昭10	昭10	昭10	昭10	昭10	昭10	昭10	昭10	昭10
昭和48	昭和57	昭和18	昭和47	明治20	明治20	明治20	明治20	昭和22	昭和45	昭和46	昭和46	昭和11	昭和52	昭和38	昭和22	昭和54	昭和56	明治42	昭和12	昭和12	昭和12	昭和12	昭和12	昭和12	昭和33	昭和11	昭和41	昭和42	昭和43	昭和56		
二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	八、五〇〇	二、〇〇〇	八、五〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	

〒606 京都市左京区一乗寺南大丸町95

電話(〇七五) 七一一―五四二九
振替 京都 七―三三〇八九

1	バルト神学概論	マッコナツキー	新生堂	昭和10	二、〇〇〇	
2	シュライエルツハアの信仰論	大島豊	第一書房	昭和9	二、五〇〇	
3	仏教の宗教経験	オリブ・ジョージ	新書堂	昭和9	一、〇〇〇	
4	児童から基督へ	亀谷凌雲	福音館	昭和12	八、〇〇〇	
5	基督のまねび	アケンビス	春秋社	昭和22	八、〇〇〇	
6	パウロの回心と基督教の起源	中上義行	教文館	昭和17	一、〇〇〇	
7	人間として見たる使徒パウロ	賀川豊彦	響醒社	昭和13	一、五〇〇	
8	基督教の愛の思想	ニイグレン	西萩書院	昭和26	三、〇〇〇	
9	聖書語句事典	聖書図書刊行会	新教出版	昭和30	一、五〇〇	
10	神を求めよはよくて	パウル・ティリヒ	新教出版	昭和26	一、〇〇〇	
11	神を求めよはよくて	小山誠太郎	新教出版	昭和28	一、〇〇〇	
12	恩寵と召命	高倉徳太郎	長崎書店	昭和28	二、五〇〇	
13	日本の再出発	W・カー	新教出版	昭和26	八、〇〇〇	
14	変らざる愛	變平松實馬	一粒社	昭和6	一、〇〇〇	
15	病床受洗	中村明	長崎書店	昭和17	一、〇〇〇	
16	情念について	小西茂也	譯(シッケ)白水社	昭和17	八、〇〇〇	
17	おねねするまで	エグレストン	女史原書	昭和8	一、〇〇〇	
18	近代日本とキリスト教	明治篇	久山康	創文社	昭和31	一、〇〇〇
19	近代日本とキリスト教	大正昭和篇	創文社	昭和31	一、〇〇〇	
20	人生と宗教	佐藤定吉	厚生閣	昭和13	一、八〇〇	
21	エールリッ博士の思ひ出	近藤忠雄	白水社	昭和18	一、〇〇〇	
22	註解	新約聖書	黒崎幸吉	全10冊	一、〇〇〇	
23	註解	新約聖書	黒崎幸吉	全10冊	一、〇〇〇	
24	生物学思想危機と轉回點	アドルフ・メイヤー	弘文堂	昭和18	一、五〇〇	
25	シュワリエル文化の發達と再建	石原兵水	新教出版	昭和28	一、五〇〇	
26	シュワリエル文化と倫理	横山喜之	新教出版	昭和28	一、五〇〇	
27	ダーウィニズムの諸問題	八杉龍一	理學社	昭和23	六、〇〇〇	
28	数学論	由木康謙	白水社	昭和23	八、〇〇〇	
29	数学論	今野武雄	唯物論全書⑤	昭和23	五、〇〇〇	
30	原始社会	岡田謙	弘文堂	昭和14	一、〇〇〇	
31	聖心(心)の王国	梶原郎	帝國教育研究会	昭和15	一、〇〇〇	
32	(飛驒のかたりべ)ぬい女物語	小鷹ふさ	昭和46	一、〇〇〇		
33	新樂劇論	緒倫	坪内逍遙	早大出版部	昭和37	七、〇〇〇

73	刑法大全	下	和韓文	全教班	隆熙2	八〇〇〇
74	政党	其政治主義	ノイマ	抄訳	隆熙2	一六〇〇
75	ギルド社会主義	森戸辰男訳			大9	八〇〇〇
76	雑草集	其二	河上肇	初版	昭21	五〇〇〇
77	人民戦線運動とは何ぞや	神田孝一			昭11	五〇〇〇
78	我国消費組合運動の展望	浜田道之助編			昭12	四〇〇〇
79	消費者の社会的地位	森田太助訳			昭13	八〇〇〇
80	黒潮に土なぐる日本と南洋	中田千畝			昭16	三〇〇〇
81	滋賀郷土の一瞥	滋賀県郷土史学会			昭32	六〇〇〇
82	鶴洋	三、五号	舞鶴海軍人事部		昭17、20	五〇〇〇
83	燦たり矣三重の光	鯉江長三編			昭15	五〇〇〇
84	実態調査報告書	京都府田部	落部問題研		昭15	四〇〇〇
85	高松市に關する調査報告書	高松市教育局			昭52	五〇〇〇
86	八樓	創刊一號	文部省社会教育局		昭16	八〇〇〇
87	高宮小學校百年史	(彦根)	目賀田守公編		昭47	五〇〇〇
88	冒險世界	六卷五号	七卷一號	博文館	大2各四	四〇〇〇
89	少年百科	第一、第十二集摘	加藤健吉編		昭24	三、五〇〇〇
90	英文、パピイ	日本史辭典	日本版		元四	三〇〇〇
91	英文	下田物語	スタックラー	日本版	元七	三〇〇〇
92	英文	大鏡	ヨセフヤマガワ		元七	三、〇〇〇
93	英文	日本文学史	近世ドナルドギン	日本版	元六	三、五〇〇
94	英文	義経	東京大学新聞版		元六	五、〇〇〇
95	英文	五輪の書	宮本武蔵		元四	三、〇〇〇
96	英文	北斎漫画選集	ミツチナー		元五	一、五〇〇
97	英文	日本文学史	アストン著		元五	二、〇〇〇
98	英文	好色一代男	浜田訳		元五	二、五〇〇
99	英文	武士道	新渡辺稲造		元六	二、〇〇〇
100	英文	東の国より	ラフカディオ	ハーン	元七	二、〇〇〇
101	英文	快談	ラフカディオ	ハーン	元六	二、〇〇〇
102	英文	骨董	ラフカディオ	ハーン	元七	二、〇〇〇
103	英文	日本	ラフカディオ	ハーン	元四	二、五〇〇
104	英文	靈の日本	ラフカディオ	ハーン	元七	二、〇〇〇
105	英文	ミカドの国の外国	ウイリアムス		元七	二、〇〇〇
106	英文	名人	川端康成		元五	一、五〇〇
107	英文	歌舞伎入門	ハルフアード		元六	二、五〇〇
108	英文	日本の歴史	マイワ		元六	二、〇〇〇
109	英文	日本の能	ワーレイ		元六	二、五〇〇
110	英文	三島由紀夫伝	ネイサン		元五	三、〇〇〇
111	英文	日本の歴史	ホー		元六	二、五〇〇

井上書店

電話(〇七五) 七八一三三二
振替 京都 七二二四九七〒606 京都市左京区今出川通百万遍東入
(京都大学前)

33	立原道造全集	角川書店	全5冊	昭40	一、〇〇〇
32	ヘンダーリン全集	河出書房	全4冊	昭42	九、〇〇〇
31	韓国絵画史	安輝清		昭62	三、七〇〇
30	中国古代理量衡図集	吉川弘文館	みすず	昭60	五、五〇〇
29	中国古典劇の研究	岩城秀夫	創元社	昭61	三、七〇〇
28	近畿行脚	2冊組	文芸春秋	昭18	四、〇〇〇
27	比島戦記		文芸春秋	昭18	二、〇〇〇
26	靈元天皇宸筆 乙夜隨筆	佐々木信綱編	大八洲	昭21	二、五〇〇
25	皇女昭宮	秋元書房		昭48	二、〇〇〇
24	住友銀行三十年史	非売		大15	三、〇〇〇
23	京都市政要覧	京都市役所		昭4	三、五〇〇
22	史籍の選訳法史籍解題	雄山閣		昭15	一、八〇〇
21	透谷全集 第巻 評論及び感想他	岩波書店		昭37	一、四〇〇
20	山川均自伝	岩波書店		昭37	一、四〇〇
19	華色のANUS	稲垣足穂	初版	昭47	二、六〇〇
18	星霜	宇野信夫	初版	昭19	一、六〇〇
17	板散華	榎方志功	初版	昭17	七、〇〇〇
16	崑崙の玉	井上靖	初版	昭35	三、〇〇〇
15	しるばん 井上靖正統2冊続の帯初版	中央公論		昭37	五、〇〇〇
14	早稲田の森	井伏鱒二	帯初版	昭46	一、五〇〇
13	愛の世界	佐藤春夫編	朝日新聞	昭38	一、五〇〇
12	美の世界	佐藤春夫編	朝日新聞	昭37	一、五〇〇
11	櫻桃	太宰治	初版	昭23	三、〇〇〇
10	斜陽	太宰治	再版	昭23	一、〇〇〇
9	情報 立野信之	新鋭文学叢書	初版	昭22	四、〇〇〇
8	流民詩集	小熊秀雄・中野重治	初版	昭22	四、〇〇〇
7	情報天皇に達せず	上細川護貞	磯部書房	昭28	一、二〇〇
6	神風特別攻撃隊	猪口・中島		昭26	一、二〇〇
5	吹雪と原始林	寒川光太郎	日本交通文庫	昭24	一、七〇〇
4	駒形丸事件	吉田綱男	非売	昭35	二、〇〇〇
3	信玄ト謙信	春秋無城		昭40	二、五〇〇
2	小泡十種	三宅雄二郎	丙午出版	明44	三、〇〇〇
1	勝海舟	山路愛山	東亜堂	明44	三、〇〇〇

萩書房

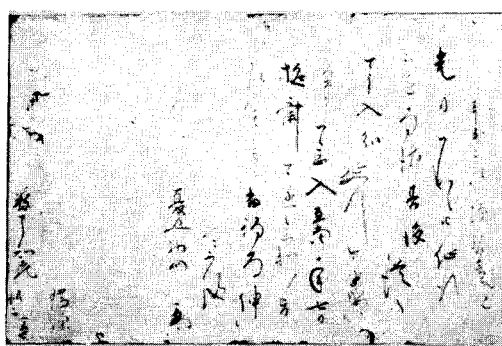
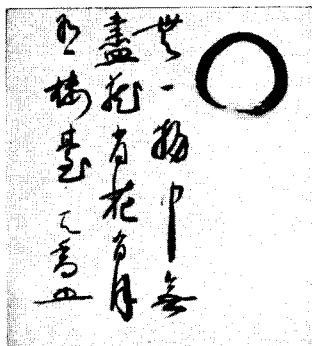
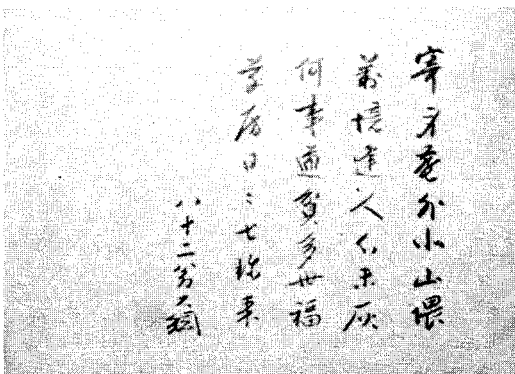
電話(〇七五) 四三二二七二
振替 京都 八一四二二六〒602 京都市上京区烏丸通り上御雲前下ル
上御雲前町四二二

31	山と溪谷	初版	田部重治	萬葉出版社	昭23	一、五〇〇
30	ふるさとの山々	初版	田部重治	第一書房	昭16	一、七〇〇
29	峠と高原	増補版	田部重治	新潮社	昭13	三、五〇〇
28	スキーの山旅	再版	田部重治編	大村書店	昭5	二、五〇〇
27	山に逝ける人々	初版	春日俊吉	朋文堂	昭12	一、八〇〇
26	山と雪の受難者	初版	春日俊吉	朋文堂	昭17	三、〇〇〇
25	単独行	再版	加藤文太郎	朋文堂	昭16	三、〇〇〇
24	山の組曲	初版	瀬名貞利	朋文堂	昭16	三、〇〇〇
23	山岳夜話	北尾謙之助	梅津書店	大10	二、〇〇〇	
22	わが山旅	初版	田淵行男山岳写真集	誠文堂新光社	昭27	三、五〇〇
21	山の絵巻	初版	西川正治遺作集	昭16	二、〇〇〇	
20	山の心	初カバ	植有恒	毎日新聞社	昭49	二、〇〇〇
19	山行	六版函	植有恒	改造社	大12	二、〇〇〇
18	山の科学	布表紙	原田三夫	新光社	大13	二、五〇〇
17	山の科学	布表紙	原田三夫	新光社	大13	二、五〇〇
16	山と友	東大山の会五十周年記念	東京大学山の会	昭56	六、〇〇〇	
15	霧の山	初版カバ付	附書19	安川茂雄	昭39	一、八〇〇
14	すこし昔の話	初版カバ付	附書19	安川茂雄	昭39	一、八〇〇
13	山なみ帖	初版カバ付	小谷隆一	茗溪堂	昭56	三、〇〇〇
12	やま限定200部の内第14巻	吉島嶺前山岳書房		昭55	二、〇〇〇	
11	山と友	東大山の会五十周年記念	東京大学山の会	昭56	六、〇〇〇	
10	積雪期登山	山崎安治編	朋文堂新社	昭42	一、三〇〇	
9	山と友	東大山の会五十周年記念	東京大学山の会	昭56	六、〇〇〇	
8	山が山であつたころの山登りの話	初版	函常付	昭19	二、〇〇〇	
7	山の地形図	山口正	宋栄堂	昭23	一、五〇〇	
6	雲表を歩く	(日本アルプス立山B6、66頁)		昭58	一、〇〇〇	
5	日本岳連史	高橋定昌	出版科学総合研究所	昭58	一、〇〇〇	
4	現代アルピニズム講座	1〜5迄5冊	あかね書房	昭43	五、〇〇〇	
3	改訂 現代登山全集	全10巻	東京角川新社	昭43	五、〇〇〇	
2	Eーデルワイス・シリーズ	全6巻	角川書店	昭43	五、〇〇〇	
1	山岳講座	全6巻	川端隆章・近藤等編	白水社	昭29	三、五〇〇

32	富士山	初版布表紙印有	深田久弥	青木書店	昭15	三、五〇〇	
33	高原一紀と案内	少澤	深田久弥編	青木書店	昭13	一、八〇〇	
34	回想の谷川岳	初版	安川茂雄	朋文堂	昭34	二、〇〇〇	
35	穂高に死す	初版	安川茂雄	三笠書房	昭47	一、五〇〇	
36	山のパンセ	初版函付	串田孫一	実業之日本社	昭47	五、〇〇〇	
37	心の歌う山	初版函付	串田孫一	実業之日本社	昭49	五、〇〇〇	
38	山のパンセⅢ	初カバ・帯	串田孫一	実業之日本社	昭38	一、二〇〇	
39	名もなき季節	初版	尾崎喜八	創文社	昭51	三、五〇〇	
40	たつた二人の山	初版	浦松美太郎	文芸春秋	昭33	一、五〇〇	
41	谷川岳物語	初カバ	杉高久	山と溪谷	昭34	一、五〇〇	
42	山の隣人	覆刻・函帯	長尾宏他	木耳社	昭56	三、五〇〇	
43	山がたり	正統二冊カバ	葉大猪之助	文芸春秋	昭46	三、〇〇〇	
44	写真集日本アルプス	初版	岳人編集部	東京新聞	昭40	二、〇〇〇	
45	日本アルプスの自然	小林国夫	築地書館	昭40	二、〇〇〇		
46	山とお花畑	全3巻	初版カバ	田辺和雄	高陽書院	昭36	一、〇〇〇
47	山みちで花に逢う日は	川口邦雄	矢来書院	昭53	一、〇〇〇		
48	写真集乗鞍の雷鳥	函	丹羽宏	東京新聞	昭49	三、〇〇〇	
49	山岳大観	函	各務良幸・麻生武治編著	木星社	昭9	二、〇〇〇	
50	日本地理大系	別巻1	山岳	改造社	昭5	三、〇〇〇	
51	改訂現代登山全集	2	穂高・上高地	東京創元社	昭43	一、〇〇〇	
52	改訂現代登山全集	4	白馬不帰鹿島嶺	東京創元社	昭43	一、〇〇〇	
53	改訂現代登山全集	6	八ヶ岳	東京創元社	昭43	一、〇〇〇	
54	日本北アルプス登山案内			鉄道省	大13	二、五〇〇	
55	登山とキャンプ	地案内	室田庫造編	誠文堂	昭7	二、〇〇〇	
56	富士山麓と御岳	附富士山麓		山梨県月堂	大14	三、〇〇〇	
57	八ヶ岳火山群	一九三三年版	一日二日の山と高原				
58	穂高	新隆浩作品集	温泉、旅費	平賀文男	昭7	三、〇〇〇	
59	立山と黒部			毎日新聞社	昭53	七、〇〇〇	
60	秩父の回帰	初カバ・帯	原全教	河出書房新社	昭53	一、二〇〇	
61	天城の山の物語	初カバ・帯	野本治朗	俳句研究社	昭39	一、八〇〇	
62	秘境・奥美濃の山旅	初カバ	芝村文治編	ナカニヤ	昭51	一、三〇〇	
63	登山の第一歩	初	中島博	宏元社	昭9	一、〇〇〇	
64	山あはれこそ	遭難の前と後	長野県警察本部	二見書房	昭41	一、五〇〇	
65	ヒマラヤの旅	復刻	長谷川伝次郎	国書刊行会	昭50	一、八〇〇	
66	ヒマラヤの旅	竹節作太	ベニスボルマガジン社		昭34	二、〇〇〇	
67	スウイス日記	普及版	辻村伊助	梓書房	昭11	一、五〇〇	
68	エヴェレストへの長い道	初版・カバ付		創元社	昭32	三、〇〇〇	

文藻堂

〒604 京都市中京区新烏丸通竹屋町上ル

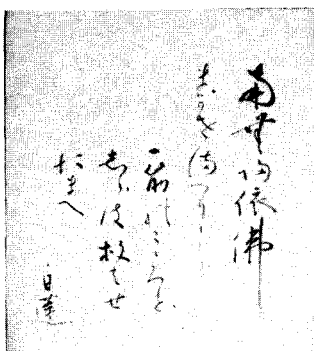
電話(五五)二三二一九一四
振替 京都 八一六一五3. 善光寺門跡 大智智栄 色紙
真照 玉鑑智栄 ¥50,0001. 大徳寺176世 安室宗閑 自筆書翰 裁内了智宛(少虫損)
江月宗玩ノ法嗣 瑞源院二世 (48×32櫃) 未表装一紙 ¥80,0004. 一燈圖 西田天香 色紙(絹本)
無一物中無尽蔵有花有月有樓台 ¥50,0002. 大徳寺435世 大綱宗彦 詩懷紙(35×26櫃)
寄身塵外北山隈云々 大綱宗彦 未表装一紙 美品 ¥80,000

14 13 12 11 10 9

香川景樹 短冊 題 暮秋
石川依平 短冊 題 夕霞
町田久成 短冊 題 辞世
大和田建樹 短冊 題 苦
大徳寺松雲和尚 詩短冊 穿蔵越歌不詳方云々 七絶
円覚寺釈宗演 短冊 我庵は小さけれども狭からず云々

金砂子

和歌 美 美 美 美 美
一〇、〇〇〇円
一五、〇〇〇円
一〇、〇〇〇円
八、〇〇〇円
七、〇〇〇円

7 柳原白蓮 色紙 一〇、〇〇〇円
南無彌陀佛まかせまつりし一筋の
こゝろとしらば救はせたまへ8 古武弥四郎 水墨菊自画賛 色紙
秋色漸老 弥老「古武」印 五、〇〇〇円5 長尾雨山 水墨菊自画賛 色紙
「石隠」落款 絹本 二二、〇〇〇円6 辻本史邑 水墨菊自画賛 色紙
凌霜放香 史邑載墨 一〇、〇〇〇円

- 電話(〇七五)三四一七八七九三
振替 京都 一七九三二八

〒600 京都市下京区仏光寺通東洞院角

和書の部

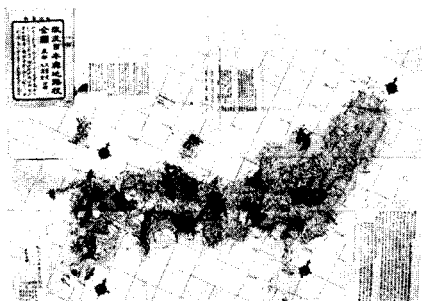
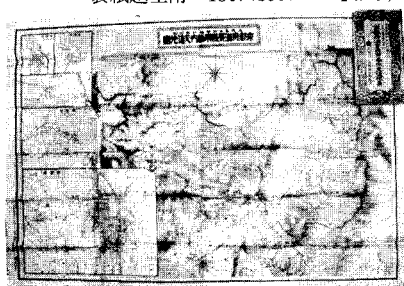
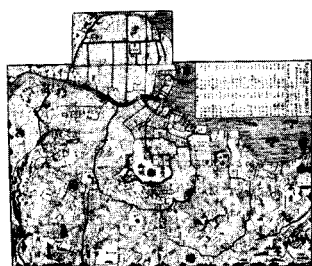
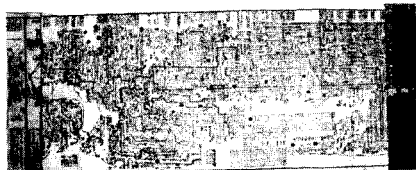
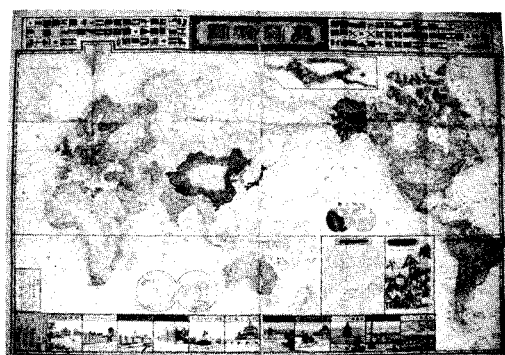
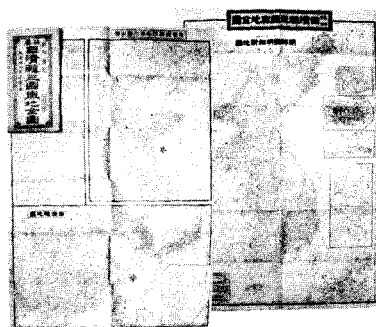
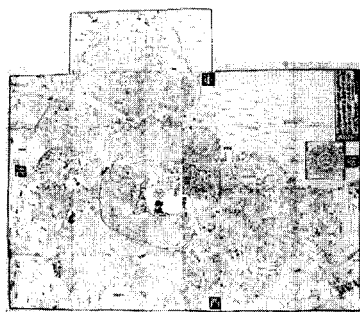
- | | | | | | |
|----|-------------------|--------------|------|-------|-----|
| 1 | 初学人身調理 上・下 | 解剖図入 | 松山操 | 明15 | 六〇〇 |
| 2 | 袖珍 無双節用集 | 名倉重三郎編 | 明13 | 三〇〇 | |
| 3 | 改正 日本道中集(人) | 大橋堂蔵板 | 明20 | 三〇〇 | |
| 4 | 會計便覧 全一冊 出雲寺萬次郎蔵板 | 安政5 | 二〇〇〇 | | |
| 5 | 現今英名百首 木板肖像百図入 | 沼尻桂一郎編 | 明14 | 三〇〇 | |
| 6 | 阿波国宮蔵山之図畫 小版 | 銅版図入 | | 三〇〇〇 | |
| 7 | 日本地誌略字引 全 | 奥ノ院宮蔵山事務所 | 明11 | 二五〇 | |
| 8 | 整色写真術 | 佐和九郎 | 昭5 | 一八〇〇 | |
| 9 | 露出の秘訣 | 佐和九郎 | 昭6 | 二五〇〇 | |
| 10 | 密着と引伸 | 佐和九郎 | 昭8 | 三〇〇〇 | |
| 11 | 整色写真の研究 | 佐和九郎 | 昭7 | 二八〇〇 | |
| 12 | 誰にでも出来る現像の要領 | 鈴木八郎 | 昭12 | 二五〇〇 | |
| 13 | 写真の失敗とその原因 | 鈴木八郎 | 昭3 | 一五〇〇 | |
| 14 | 小形活動写真術 | 上・下 吉川速男 | 昭4・6 | 三〇〇〇 | |
| 15 | 写真術の新研究 | 吉川速男 | 大12 | 一五〇〇 | |
| 16 | 私の引伸 | 吉川速男 | 昭11 | 二五〇〇 | |
| 17 | 写真術の第一歩 | 吉川速男 | 昭3 | 五〇〇 | |
| 18 | 芸術写真の研究 | 南実 | 大10 | 一五〇〇 | |
| 19 | 引伸写真術 | 中島謙蔵 | 大13 | 二〇〇〇 | |
| 20 | 原板の手入 | 南実 | 昭5 | 一〇〇〇 | |
| 21 | 趣味の写真術 | 三宅克己 | 大13 | 二〇〇〇 | |
| 22 | 写真術の五十講 | 高桑勝男 | 大11 | 二〇〇〇 | |
| 23 | 中等写真術 | 加藤直三郎 | 大10 | 一五〇〇 | |
| 24 | 人物写真のうつし方 | 勝田康雄 | 大15 | 一五〇〇 | |
| 25 | カメラハンドブック | 阿部正二 | 昭30 | 一〇〇〇 | |
| 26 | 写真術初等百講 | 朝日新聞社 | 昭16 | 二五〇〇 | |
| 27 | 百万人の写真術 | 北野邦雄 | 昭14 | 二五〇〇 | |
| 28 | 初歩の写真うつし方 | 児島志郎 | 昭8 | 一五〇〇 | |
| 29 | 映画講座3 トーキョーと天然色映画 | 東方書院 | 昭7 | 二五〇〇 | |
| 30 | 写真階梯 | 加藤信一 | 明37 | 七五〇〇 | |
| 31 | 微細粒子現象法 | 飯田政雄 | 昭9 | 二〇〇〇 | |
| 32 | 静物写真の写し方 | 寺村利弘 | 昭11 | 二八〇〇 | |
| 33 | 電燈及照明 | 藤井隣次 | 昭2 | 三八〇〇 | |
| 34 | 燈火の変遷 | 關重広 | 昭16 | 二五〇〇 | |
| 35 | 写真技術講座 七冊 | 共立出版 | | 一五〇〇〇 | |
| 36 | 洋酒美選 完 | 五〇〇部限定 米山堂再版 | 大15 | 五〇〇〇 | |
| 37 | 和漢新図 扶桑書譜 | 内藤道有善 五卷合本三冊 | | 二〇〇〇 | |

〒604 京都市中京区寺町通錦上ル

大書堂

電話(〇七五)二二一〇六八五
振替 京都 七三二一六五

大日本國全圖 兵要日本地理小誌附図

佐々木綱親 明治9年 表紙題箋附
銅版彩色 66×86cm 三〇〇〇〇円改正日本輿地路程全圖 長久保赤水 弘化3年新刻
表紙題箋袋附 彩色摺改正地球萬國全圖 長久保赤水 無刊記 手彩色
表紙題箋附 156×100cm ¥120,000京都府滋賀県兩管内交通地圖 大阪毎日新聞
袋附 79×119cm ¥10,000新板分間御江戸絵圖 永寿堂 文政版
表紙題箋袋附 彩色摺 43×68cm ¥28,000道中行程大日本独案内 大坂吉文字屋 文政5年
表紙題箋附 墨摺 39×132cm ¥18,000明治新撰萬國精圖 完 京都後藤七郎右衛門 明治19年
表紙題箋附 銅版彩色 61×86cm ¥35,000兵用日清韓三國輿地全圖 宗孟寬著
明治27年 袋附 82×54cm 2枚
一七、〇〇〇円懷宝御江戸絵圖 須原屋版
文化8年 63×90cm 墨摺
表紙題箋附 一八、〇〇〇円

〒606 京都市左京区北白川久保田町64の5

社会科学系
外山書店
電話(〇七五) 七〇一六六二七
振替 京都 九一六三八四

- 1 東洋文化研究所紀要 東京大学同所
第19冊(昭34) 第82冊(昭55)揃一部シツケ有 六,〇〇〇
- 2 大阪大学文学部紀要
3号(昭29) 23号(昭58)内6号のみ欠 五,〇〇〇
- 3 待兼山論叢 大阪大学文学会
創(昭42) 第17号(昭58)揃
哲学・史学・文学・美学・日本学各篇在 二,〇〇〇
- 4 国文学研究誌 山辺道 天理大学国語国文学会
創(昭30) 24号(昭55)内21冊在 二,〇〇〇
- 5 語文 大阪大学国文学研究室編輯
第16輯(昭30) 42輯(昭58)内25冊在 二五,〇〇〇
- 6 国語研究 国学院大学国語研究会
3号(昭30) 29号(昭44)内20冊在 二〇,〇〇〇
- 7 大阪大学インド・東南アジア研究センター彙報
1号(昭39) 9号(昭48)揃 一六,〇〇〇
- 8 GALLIA 大阪大学フランス語フランス文学会
1号(昭28) 22号(昭58)揃 六,〇〇〇
- 9 風俗 日本風俗史学会
創(昭36) 18巻2号(昭55)内37冊在 三七,〇〇〇
- 10 園芸学会雑誌(復刻版) 同会編
第1巻(大14) 第15巻(昭19)揃合本7冊 四五,〇〇〇
- 11 弘法大師伝全集(昭10刊復刻) 全10巻 昭52 四〇,〇〇〇
日蓮上人 熊田末次郎 明44 二〇,〇〇〇
- 12 曹洞宗布教指導叢書(復刻版)
全4巻(付・叢書通信) 同宗教事務局 昭54 二〇,〇〇〇
- 14 真言宗法話全集 全15巻 ビタカ編集部 昭52 四〇,〇〇〇
- 15 禅宗編年史(復刻版) 全2冊 白石虎月 昭51 二〇,〇〇〇
- 16 釈教歌詠全集(復刻版) 全6巻 東橋順次郎他 昭53 三〇,〇〇〇
- 17 心学道話全集(復刻版) 全6巻 同刊行会 昭53 一五,〇〇〇
- 18 道藏内仏教思想資料集成 鎌田茂雄 昭51 一五,〇〇〇
- 19 THE YOUNG EAST (復刻版) 全7巻
創(昭1) 10巻2号(昭19)揃 国際仏教協会 三〇,〇〇〇

- 20 中国の宗教・思想と科学 牧尾良海博士頌寿記念論集 昭59 一四,〇〇〇
- 21 中国人の宗教儀禮 大淵忍爾編
一 仏教・道教・民間信仰 昭58 二五,〇〇〇
- 22 菩提達磨嵩山史蹟大観(復刻版) 繁尾順敬監 昭56 二五,〇〇〇
- 23 神道講座(新装版) 全7巻 神道攷究会編 昭56 三〇,〇〇〇
- 24 神宮参拝記大成(昭12刊復刻) 全3冊 神宮司庁 昭51 二〇,〇〇〇
- 25 神宮参拝記大成(昭12刊復刻) 神宮司庁 昭51 二〇,〇〇〇
- 26 二宮祐宣年表(昭9刊復刻) 神宮司庁 昭51 二〇,〇〇〇
- 27 七宮神祇災復興史 太田直三郎 昭42 三〇,〇〇〇
- 28 農民と信仰 本山桂川民俗誌全集1 昭53 二〇,〇〇〇
- 29 祭りと習俗 昭53 三〇,〇〇〇
- 30 長崎風物誌 昭53 三〇,〇〇〇
- 31 山崎延吉全集 全7巻 同刊行会 昭12 七〇,〇〇〇
- 32 大原幽学 高倉テル 昭16 二〇,〇〇〇
- 33 大原幽学の事情 飯田依一 昭9 二〇,〇〇〇
- 34 東京国立文化財研究所20年のあゆみ 同所 昭48 一〇,〇〇〇
- 35 近代日本の思想家 向坂逸郎 昭29 四〇,〇〇〇
- 36 日本の知識人 小松攝郎編 昭32 二〇,〇〇〇
- 37 日本近代社会思想史 岸本・小山 昭34 四〇,〇〇〇
- 38 日本近世の文化革命 福田和夫 昭24 一五,〇〇〇
- 39 西田哲学 高山岩男 昭10 一〇,〇〇〇
- 40 西田幾多郎先生の追憶 高坂正顯 昭23 一〇,〇〇〇
- 41 西田哲学批判 林 直道 昭23 一〇,〇〇〇
- 42 西田哲学入門 柳田謙十郎 昭22 一〇,〇〇〇
- 43 増訂 西田幾多郎と三木清 佐藤信衛 昭22 一〇,〇〇〇
- 44 西田幾多郎の根本問題 瀧沢克己 昭22 一〇,〇〇〇
- 45 西田幾多郎の手紙 田部隆次 昭22 一〇,〇〇〇
- 46 実践哲学としての西田哲学 柳田謙十郎 昭16 一〇,〇〇〇
- 47 日本マルクス主義運動の黎明 渡辺春男 昭32 二〇,〇〇〇
- 48 論理実証主義とマルクス主義 中村秀吉 昭36 一〇,〇〇〇
- 49 生物学と唯物弁証法 石井友幸 昭28 一〇,〇〇〇
- 50 道徳の哲学 三宅剛一 昭22 一〇,〇〇〇
- 51 勤の研究 正統 黒田 亮 昭13 一〇,〇〇〇
- 52 学習心理学(少線) 久保良英 昭4 二〇,〇〇〇
- 53 文章心理学 波多野完治 昭24 一〇,〇〇〇
- 54 教育心理学 依田新編 昭27 一〇,〇〇〇
- 55 異常心理学 加藤正明 昭32 一〇,〇〇〇
- 56 戦後日本心理学の展望 遠藤汪吉編 昭32 五〇,〇〇〇

- 57 心理学 今田 恵 昭30 二五,〇〇〇
- 58 現代心理学の諸学説 相良守次編 昭39 三〇,〇〇〇
- 59 心理学的散歩 波多野完治 昭16 二〇,〇〇〇
- 60 教育と心理のための推計学(少線) 岩原信九郎 昭42 三〇,〇〇〇
- 61 ピアジェ・臨床児童心理学(2冊) 大伴茂訳 昭30 八〇,〇〇〇
- 62 I 児童の自己中心性 II 児童の世界観 昭30 31 八〇,〇〇〇
- 63 ジェームズ心理学 今田 恵 昭32 31 二〇,〇〇〇
- 64 シュテーム・世界の思想史 上 草橋正夫訳 昭42 二〇,〇〇〇
- 65 フォーリング・社会思想史 高橋正男訳 昭21 二〇,〇〇〇
- 66 シェリング・近世哲学史講義 細谷貞雄訳 昭25 二〇,〇〇〇
- 67 ヴェンデルバント・一般哲学史 全四冊 井上哲治訳 昭17 一五,〇〇〇
- 68 哲学とは何か デイルタイ(戸田三郎訳) 昭5 四〇,〇〇〇
- 69 フォーラー(坂田徳男訳) シェラー(三木清訳) 昭5 四〇,〇〇〇
- 70 ベルンハイム・歴史とは何ぞや 坂口小野訳 昭13 一五,〇〇〇
- 71 レヴィンソン・心臓 この未知なるもの 野沢・中山訳 昭38 五〇,〇〇〇
- 72 マイヤー・歴史の理論と方法 植村・安藤訳 昭45 一五,〇〇〇
- 73 オピッツ・マルクス主義と認識論 長沼・岩淵訳 昭45 二〇,〇〇〇
- 74 戦後日本史 全5巻 歴史学研究会編 昭37 三〇,〇〇〇
- 75 大平洋戦争史 全5巻 歴史学研究会編 昭37 三〇,〇〇〇
- 76 小林一三全集 全7巻 タイヤモンド社 昭37 二五,〇〇〇
- 77 ウェルズ・世界文化小史 山本政喜訳 昭14 一〇,〇〇〇
- 78 イエリグ・歐洲民族文化史 井上哲治訳 昭29 二〇,〇〇〇
- 79 世界歴史講座 全6巻 民主主義科学者協会 昭29 二〇,〇〇〇
- 80 書物と世間 桑木嚴翼 昭29 二〇,〇〇〇
- 81 朝鮮社会運動史事典 文国柱 昭56 四〇,〇〇〇
- 82 西院の歴史 小沢嘉三 昭58 四〇,〇〇〇
- 83 京都染織業の研究 出石邦保 昭47 五〇,〇〇〇
- 84 近畿地方国宝・重要文化財総合目録 昭48 六〇,〇〇〇
- 85 京都府文化財保護基金編 昭48 六〇,〇〇〇
- 86 福知山町水道誌 同町役場 昭9 三〇,〇〇〇
- 87 京都市高速鉄道丸線建設小史 市交通局 昭61 四〇,〇〇〇
- 88 京都市の工業 昭53・54年度 府 各二〇,〇〇〇
- 89 京都府産業の展望 一九八三年版 府立中小企業総合指導所 昭50 二〇,〇〇〇
- 90 協同の精華 朝日協同企業組合 昭50 三〇,〇〇〇
- 91 海と山の(むら)の変貌と農漁民 府農業会議他 昭44 五〇,〇〇〇
- 92 京都府与謝郡伊根町 昭44 五〇,〇〇〇

国書刊行会 〒170 東京都豊島区巢鴨3-5-18
☎03(917)8287

不朽の大屋仏敎史学を集成

大屋徳城



全10巻

膨大な資料の発掘・研究・公刊を通して、東アジアの規模から日本仏敎の源流を究明した貴重論文の集成。

⑧ 寧楽刊経史

奈良に於ける仏典開版の歴史的な研究である。奈良朝時代「文獻に遺れる開版事業」から徳川時代「町版の勃興と寺版の衰微」に至る奈良諸大寺の活動を隈なく調査・究明する。仏敎文化の研究史上画期的成果と目される名著。 定価6500円

以下続刊

1 寧楽仏敎史論	10000円
2 日本仏敎史の研究(一)	7300円
3 日本仏敎史の研究(二)	9000円
4 日本仏敎史の研究(三)	9800円
5 日本仏敎史論攷	7500円
6 仏敎史の諸問題	7000円
7 高麗統蔵彫造攷	17500円
9 仏敎古板経の研究	8000円
10 朝鮮中国巡礼行・寧楽文化巡歴	7400円

宮沢賢治と法華経

八重樫要編「国訳妙法蓮華経」千部を頒布するよう遺言して死んだ賢治。「法華経」をテーマとした論文五篇を収録。賢治文学の真髄に迫る書、待望の復刊。 定価2500円

街道に生れた民画

大 津 絵

〈資料提供〉 東京国立博物館 日本民芸館
浜松市美術館 大津市教育委員会他

〈解 説〉 小野忠重、片桐修三、石丸正運他

- 図 版 原色図版 128点 写真図版 230点
- 総 頁 314頁 (内 解説 94頁)
- 判 型 B4判 (350mm×257mm)

■ 定 価 38,000円

■ 発 行 光 琳 社 出 版

〈発売元〉 株式 有 秀 堂 会社

〒604 京都市中京区押小路通東洞院東入
電話 (075) 256-2880 番

最 新 刊

好 評 発 売 中

絶 賛

古文化財の科学

山崎一雄著

古文化財の科学的研究の第一人者による四十五年余にわたる成果をまとめる。正倉院宝物の調査・装飾古墳・高松塚・法隆寺金堂・栄山寺八角堂・醍醐寺五重塔・源氏物語絵巻などの顔料分析、正倉院の陶器・ガラスや緑釉陶などの化学分析、および銅鏡・銅鐸・青銅器などの成分分析に関する諸報告を収録。

●A5判・二八〇頁／定価五、八〇〇円

高橋等庵日記

全九巻

大瀧徹也・熊倉功夫・簡井紘一校訂

萬象録

既刊第一・二・三巻

明快・的確な筆さばき、鋭敏な同時代感覚にあふれた一大メモワール！書画骨董から音曲・能・歌舞伎・新劇等々、裏会記や諸大名家の売立・入札記録、茶話や政財界人の談話も満載。今ここによみがえる稀代の数寄者のころ。

ザ・ヤトイ

お雇い外国人の総合的研究

お雇い外国人が明治維新前後の日本の近代化に果たした役割は計り知れないものがあり、本書は、今日の視点からお雇い外国人の役割を見直し、現代に及ぼした影響などを究明し、あわせて国際学術文化の交流発展のために、一九八五年三月、福井大学において開かれた「第二回ザ・ヤトイ国際シンポジウム福井大会」の成果をまとめたもので、講演三篇のほか十八篇を収録した。

●B5判・一三〇頁／定価六、三〇〇円

明治初年真宗門徒大決起の研究

三上一夫著

越前護法大一大探分析

明治初年に続発した一連の真宗門徒大決起の中から、本書では「越前護法大一大探」の詳細な分析を通して、その実態・経過・歴史的特質・地域性などについて、多面的・重層的にとりあげ、わが国の近代化政策に対する一視角を提示する。図表多数収録。

●A5判・二二〇頁／定価三、八〇〇円

京都町衆伊藤仁斎の思想形成

三宅正彦著

一貫した稿本研究の基礎的検証を通して伊藤仁斎の思想形成をたどり、その契機と成立を明らかにする。また京都町衆としての仁斎の意識形態をさぐり、仁斎学に新たな光をあてる。思想史のみならず近世史全般の諸課題を問う力作。

●A5判・二七八頁／定価五、八〇〇円

近世復古清涼殿の研究

島田武彦著

現在の京都御所の清涼殿は、平安期より幾度かの変遷を経て、安政二年（一八五五）に造営されたものである。その際、寛政二年（一七九〇）度の復古形式が踏襲され、現在に遺制のない古代宮室や寝殿造がしのばれる。宮内庁、京大工学部を経て晩年まで清涼殿の研究に励んだ著者が、その復古の経緯を明らかにする。

●四六判・二二〇頁／定価三、八〇〇円

思文閣出版

京都本社
東京支社〒606 京都市左京区田中関町2-7
〒104 東京都中央区銀座6-11-10(075) 751-1781
(03) 572-9051

〔呈内容見本〕

御所市史
大宇陀町史

金剛葛城山地東麓、古文化揺籃の地
昭和40年刊の復刻 ●一三、〇〇〇円
今なお豊かな万葉の風土大宇陀の全て
昭和34年刊の復刻 ●一三、〇〇〇円

〔収載地図 上巻〕
大正4 慶応元
天保11 文久3
西川通船路新開図
校正 山城国全図
祇園新地細見図
西川通船路新開図

〔下巻〕
増補再板 京大絵図 乾坤
改正 京町絵図細見大成
洛陽東山名所鑑
内裏之図（新改内裏之図御紋入）
延宝5

古地図集

上下 新撰京都叢書
全八図 11巻上下
延宝年間（二宅三）から大正期に至る京都の代表的な古地図を、上下各四図は原寸にて復刻。各図は一覧できるように折たたみ式で収める貴重な資料

定価各九、四〇〇円

原本は旧警城平城主内藤氏蔵、原作者は未だに不明である。百番の中、約七割は現在も他に見ることはできない興味深い必見の書。現行曲等との異同を整理した37頁にわたる謡曲名寄対照表付。（明治45年刊の復刻）
A5判・上製クロス装函入・五〇〇頁・口絵三頁 定価八、二〇〇円

新謡曲百番

観世流現行曲内外二百番を根底に、貞享・元禄版の番外三百番、その他各流にわたって出入を補い、総計五百四十八曲にのぼる謡曲の一大集成。本書のみに見える曲も含む有用の書。頭註付。（大正3・4年刊の復刻）
A5判・上製クロス装函入・総二七六頁 揃定価三六、〇〇〇円

芳賀矢一校註謡曲叢書全3巻

佐佐木信綱校

臨川書店刊

本 606 京都市左京区今出川通川端東入50M
社 101 東京都千代田区神田駿河台2-11-16
京 530 大阪市北区芝田1-6-2阪急古書のまち
販

☎075(721)7111 FAX075(781)6168
☎03(293)5021 FAX 03(293)5023
☎06(374)1300